

競馬の教科書

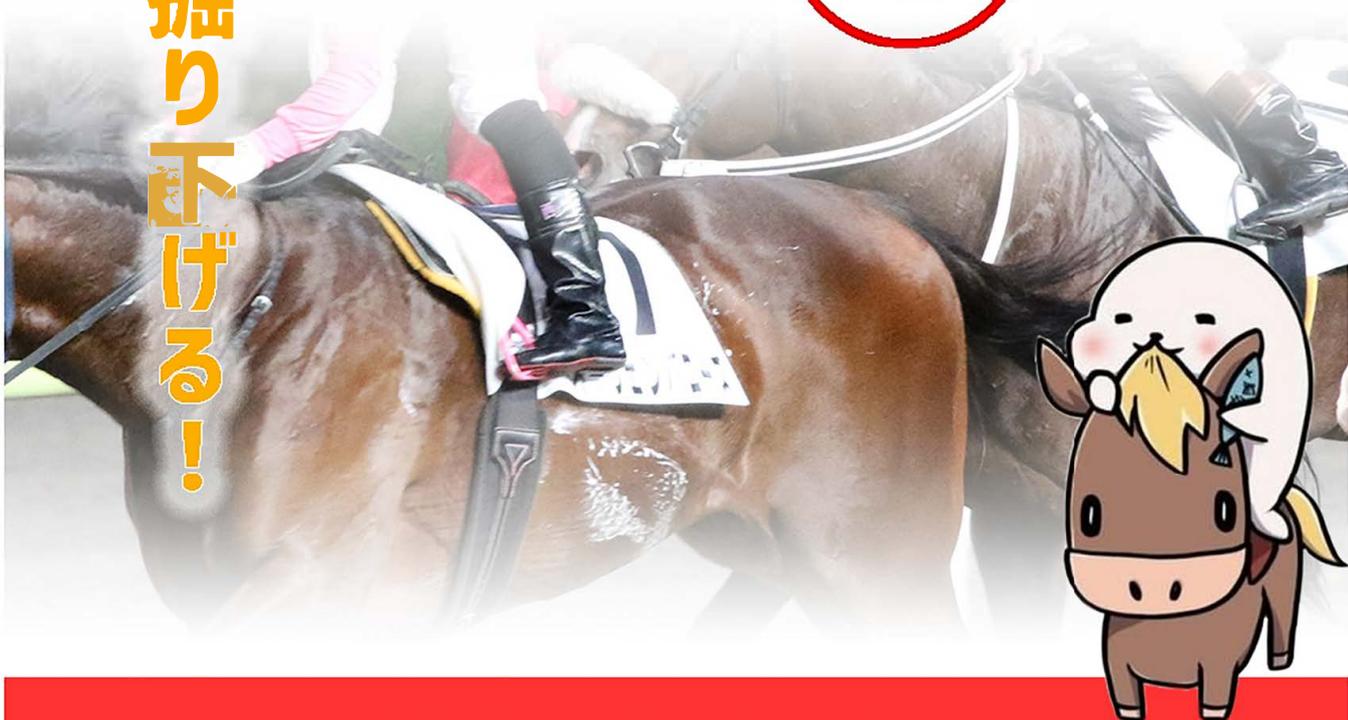
補足資料 ①

プロの競馬予想屋が

「競馬の教科書(前半部分)」を掘り下げる!

予想屋マスター・プロアマ対談

第2弾



玉嶋亮(競馬の教科書)/予想屋マスター

まえがき.....	1
第0章 雑談.....	1
第1章 アマチュアの流儀 一方針を決める.....	7
予想が上手いだけでは、競馬で勝てない.....	7
勝つための競馬は「楽しくない」.....	7
ビギナーズラック 勝つためのヒントがココにある.....	14
勝負するフィールドをあえて狭める 芝オープンクラスへのこだわり.....	17
プロとアマチュア 絶望的な差.....	20
第2章 働き方改革 一不要を捨てる.....	20
メディアの情報.....	20
騎手.....	22
血統.....	24
持ち時計.....	25
馬体重.....	27
常識・格言.....	28
根幹距離・非根幹距離.....	29
長距離輸送.....	30
第3章 合理化の徹底 一中核を決める.....	32
適正価格を見極める.....	32
再現性のある予想 理論は単純化・体系化すべき.....	34
第4章 必勝ルーティン 一単調を繰り返す.....	38
第5章 能力比較 一番付を作成する.....	52
第6章 レース映像 一現場を検証する.....	52

まえがき

『競馬の教科書』をオーバーツ・パブリッシングから2023年2月に出版した玉嶋亮です。『競馬の教科書』は、ファンの皆様や支援してくださる方々の多大な支持のおかげで、発売から1ヶ月で3,000部を超える売れ行きでした。発売部数は旧作『ピンク本』の売上を発売から1ヶ月で抜き去っており、大変好調です。リピーターの方々から「今回も買ったよ」「期待以上だった」「図解があって、より分かりやすい」等、温かいお言葉も頂戴いたしました。著者として大変嬉しく思うとともに、さらに良いものを読者様に届けたいと、一層身が引き締まる思いです。本当にありがとうございます。

『競馬の教科書』が売れていくのと同時に、沢山の質問が届きました。「これって、どういうこと?」「もう少し、具体的に知りたい」。そこで、『競馬の教科書 別冊』(2022年4月発売)で共著した予想屋マスターとの対談が大変好評だったので、この度は、『競馬の教科書』の目次に沿って対談する運びといたしました。本書は、『競馬の教科書 補足資料①』とし、前半部分である第1,2,3,4,6章について、より掘り下げることによって、読者の方々の理解を深めていただく目的で、予想屋マスターと玉嶋が対談した内容をまとめたものです。本書の内容が、少しでも読者の方々にとって、お役に立てれば幸いです。

第1章 アマチュアの流儀 方針を決める

第2章 働き方改革 不要を捨てる

第3章 合理化の徹底 中核を決める

第4章 必勝ルーティング 単調を繰り返す

第6章 レース映像 現場を検証する

※第5,7,8,9,10,11章は『実践編②』

第0章 雑談

予想屋マスター

『競馬の教科書』が絶好調に売れているみたいですね。

玉嶋亮

おかげさまで、ありがとうございます。

予想屋マスター

どうですか?売上は想像以上ですか?

玉嶋亮

やはり、出版する前は少々不安というか…。私は、出版社から商業出版するのは初めてでした。しかも、亀谷先生ら著名な先輩方も本を出している出版社でしたから。

予想屋マスター

オーバーツ・パブリッシングは、有名な著者の方が多いですね?

玉嶋亮

仰る通りで、私は無名の新人ですので。やはり不安があったのですが、リピーターの方や予想屋マスターの

ファンの方々が買ってくださいました。繰り返しますが、発売日までは本当に不安で。。。スタートダッシュを決められて、ホッとしたと言うか。ご購入いただいたファンの皆様には感謝しかありません。

予想屋マスター

「また次も書いてくれ」という良い話も来るんじゃない？

玉嶋亮

そうなれば嬉しいですけど、それは出版社が決めることですので…。是非やりたいとは思っていますけれど。

予想屋マスター

でも、『競馬の教科書』でもうほとんど書き切ったのではないですか？次のネタはありますか？

玉嶋亮

確かにそうなんです。実を言うと、今回の新刊を改訂するに当たり、改訂に 500 時間ほど時間を捻出しました。これまで、緑本、オレンジ本、ピンク本と出してきましたけど、今回の新刊は特に力を入れました。この 1 冊にたどり着くために、ザックリ累計で 1,000 時間くらい掛けていますかね？そういう意味で、新たに書くことって、実はもうあまりないかも知れません。

予想屋マスター

1,000 時間って、まあまあ凄いね。

玉嶋亮

本音を言うと、今回の新刊が勝負だと思って、とにかく推敲に推敲を重ねました。思い返すと、予想屋マスターや鈴木さん (Paddock Lab) にも、「これを書いても良いか？」「ここまで言い切って良いか？」「ミスリードしないか？」は、随分相談に乗ってもらいました。裏話を言うと、この本を出す時に凄く気を遣ったのが、かずまさんみたいな天才ではなくて、誰がトレースしても、それなりの成果を出せるように細心の注意を払いました。散々相談したので、迷惑だったと思いますが笑。

予想屋マスター

いや、そんなことないですよ笑。本を書こうと思った理由を教えてください。

玉嶋亮

まず思ったのが、競馬で勝ってきた私の方法論が、競馬ファンの役に立てるだろうと思ったんです。そこが入口。問題は、私は競馬が本業ではないですから、競馬を最優先にする生活はどう逆立ちしても無理なんですよ。さらに、予想を売るとなったら、予想屋マスターや Paddock Lab に戦いを挑まないといけないじゃないですか？

予想屋マスター

あー、分かった。確かに、玉嶋さんにいくら実力があっても、僕たちプロにはどうやったって時間の差があるから、時間的な制約で、平場を含めた多くのレースに手を出すと満足のいく予想を出せる訳がないってこと？

玉嶋亮

そうです。まず、お客様を勝たせるための予想を売るのであれば、見送るレース数が予想したレースの半分以上ある前提で運用しないと、とてもではないですが、無理ゲーです。私が予想に捻出できる年間 300 時間程度の時間では、仮に予想を売ったとしても、満足いただけるレース数の予想を提供することはできません。玉嶋亮が、競馬ファンのために何ができるだろう？と考えた時に、書籍なら、徹底的に勝つための論理を追求できるだろうと思いました。

予想屋マスター

なるほどねー。競馬ファンの気持ちを代弁すると、『競馬の教科書』が基本だとすると、『応用編』的な本は出さないんですか？

玉嶋亮

応用って、実はなかなかないですよ笑。マスターが一番よく知っているじゃないですか？やはり、これがベースだと思うんです。『適性』『コーナリング』に寄せた本も書けなくはないですが。。それを出したところで、私だけが儲かって幸せで、読者様が混乱すると思います。そういうものは、世に送り出したらいけないと思っています。もしやるとすれば、この中身を書き換える方針ですかね。あとは、『競馬の教科書』で登場するファクターをより深掘りする本かな？目新しいファクターって世間から注目されるから、私はドヤれる上に、私だけお金儲けできて幸せかも知れませんが、それって競馬に対する冒涇でしかないし、何よりも、せっかく私のファンになってくださった方々を欺くことになります。それだけは絶対にやりたくはありません。時代に合せて、必要と思ったことは取り入れていくつもりですが。

予想屋マスター

それは物凄く共感します。27 年間、プロとしてやり続けているけど、言っていることはずっと同じでやってきているつもりです。手を変え品を変え、一見さん呼び込むやり方をすれば、瞬間風速的には売れるかも知れませんが、それだと長続きしないのは、経験的に分かります。やっぱりね、固定のファンや常連のお客様が、僕にとって宝物ですよ。脱線しましたが、今後、『競馬の教科書』はどういう展望を考えていますか？

玉嶋亮

事例を差し替えていくみたいなイメージですね。新しい本を書くというよりも、この本をどんどんブラッシュアップしていきたいと思っています。どんなにブラッシュアップして優秀な本になっても、所詮は文字を介したコミュニケーションですから、限界があります。『競馬の教科書』は基本に徹して、読者の方々が道に迷わないようにしたいと思っています。勝つために進むべき方向を、私が確立した方法論を示すというか。

予想屋マスター

『競馬の教科書』は奇をてらったものではなく、すごく当たり前の基本中の基本。基本は、馬の『能力比較』『トラックバイアス』が大事だよって話をしているだけであって。ただ、これ実践するのって、物凄く大変ですよ？読者の何割ぐらいの人がこの本を理解できたと思いますか？

玉嶋亮

読者の皆様には、書いていること自体は、理解してくださっていると思っています。

予想屋マスター

なるほど。

玉嶋亮

分かるところまでいって、あるいは、当たり前のことしか書いてないねっていうレビューも結構あるんですけども。一方で、それなら突き詰めて実践できるのかって聞かれると、そこまでできるっていう人はなかなかいないだろうなと思います。マスターのYouTube解説を視聴したり、あと Paddock Lab の MTP の数字をみたり、私のメルマガで、毎週グルグルとルーティンで繰り返して、1年くらい真面目にやっていけば、身に付くかと思います。2023年1月の予想屋マスター無料メルマガ『新春コラム』で協力してくれた方の中にも、競馬歴1年の初心者の方がいらっしゃいました。それくらいの時期は、とにかく真似というか、どうすれば同じ予想ができるだろう？というのを模倣する時期だと思います。フォーム固めというか。

予想屋マスター

勉強も競馬もそうだけど、例えば僕の動画を観た後に、競馬のウンチクは語れるんだけど、まっさらの状態、「自分でゼロからやってみてよ」って言うとなんかできないと思いますね。

玉嶋亮

マスターは厳しいですね笑。私のところから入ってきてくださった方々は、そういう人が多いですよ。まずは、真似するだけでも十分だと思います。1年くらいやらないと、右往左往して難しいと思いますよ。受験対策あるあるですけど、模範解答を手元に持って、ひらすら写しまくって定石を強引に覚えるっていうのも、1つのやり方じゃないですか？

予想屋マスター

それは確かにそうかも笑。

玉嶋亮

やっぱり、一般の競馬ファンはマスターとは違いますから。平日に仕事して、週末にも試行錯誤しながら。。。というのは、なかなかしんどいと思いますよ。だからこそ、Paddock Lab『MTP』、玉嶋亮『競馬の教科書』『無料メルマガコラム』、予想屋マスターのYouTube『Q&A(月曜日)』『直前解説(金曜日)』がある訳じゃないですか？これをトレースするだけだと、本当の実力が身に付かないのは、マスターが仰っている通りです。でも、初心者の時期から、何もない状態から自分で解答を作れる人は、なかなかいないんじゃないかなとは思って。それって、雲を掴むような作業だし、どこへ向かって走っているか分からないしんどさがあると思います。私が正にそうだったので、それはよく分かります。どうだろう？私が駆け出しの時は『競馬の教科書』的なものがなかったので、自分で試行錯誤しながら今のカタチに近いやり方に到達するのに、3年くらい掛かりました。そういう意味で、『予想』『馬券』『回顧』の基本を示したつもりです。

予想屋マスター

競馬はレース前に答えがないからね。それを考えると、レース直後にビデオで振り返って、あの時はこうだったねって納得して、そこで回顧は一旦終わり。でも、回顧はここで終わりではなくて、後にそのレースに出たメンバーが別々のレースに出て新しい結果が出てくるから、それらのレース結果を加味して補正、補正。。。鈴木さんや玉嶋さんもよく言っているけど、ここまでやらないと、本当の意味での回顧って言えないんですよ。自分の予想、回顧をブラッシュアップして、より精度を高めていく必要がある。言うのは簡単で、これをやり切るのはメチャメチャ大変なんだよね。

玉嶋亮

仰る通りで、予想をやってやりっ放しは論外で、レースが終わってからの回顧だけだと足りない。レース単

体の回顧が終わってからが本当の勝負で、その後に修正、修正。。。例えば、2022年の朝日杯FSが典型的で、その後に上位入線したドルチェモア、ダノンタッチダウン、レイベリングが軒並み重賞戦線で活躍できていません。これを追跡し続けて、「朝日杯組のレベルが実は低かった」というのを言えるかどうか？というのが、本当の意味での回顧ということですよ？

予想屋マスター

そうです。これを当たり前に突き詰められるかどうか？

玉嶋亮

これを言うと、「いやいや、玉嶋さん。そんなの当たり前じゃないですか？」って仰る方が結構いらっしゃるんですけど、朝日杯FSは単なる一例で、この当たり前をどこまで突き詰められるか？ということです。話題を変えましょう。よく話題に上がる「答え合わせ」について、どう思いますか？ ※答え合わせ=自分で予想しつつ、玉嶋亮『メルマガ』予想屋マスター『YouTube』の週中予想を確認

予想屋マスター

僕が思うのは、僕や玉嶋さんとか、自分の思考で「これだ」という答えにたどり着いた人と、それを誰かから教えられた人とは随分違いますよね、他人の予想を確認して馬券を買う人と、自分の予想だけを信じて馬券を買う人では、結構差があると思います。

玉嶋亮

はい。私もTwitterを見ていてすごく思うことがあります。先に自分なりに一生懸命考えたあとで、マスターの動画や私のメルマガ、MTPを確認する人はすごく実力が伸びているなと思います。ある程度慣れてきたら、そこから脱却して、レース後に答え合わせをするのが理想と思います。

予想屋マスター

最初に問題集の答えを渡されて、問題を解き始める人はあまり上手にならないね。

玉嶋亮

そういうことですね。先に答えを見てから分析をしちゃうと、結局は後付けですからね。先程言った『フォーム固め』のために、それをやるのは否定しませんが、自分で予想したいのなら、どこかで脱却しないと、とは思っています。月曜日に公開している重賞MTPは、予想屋マスターと双璧の精度が高い『能力比較』ですから、それを先に見ちゃうと、どうやったってバイアスが働きますから。それを見てから自分で週中予想をしたところで、後付けの見解に近くなっちゃうだろうな、とは思っています。私やマスターは、「他人の予想は関係ない」というタイプですから、木曜日の『玉嶋メルマガ 番付』や、金曜日の『予想屋マスター YouTube』は、MTPとほぼ同じ判断基準で序列を作っているから、序列は大体同じなんですけど、まったく同じにはならないんですよ。「俺は俺だ。MTP (Paddock Lab)、メルマガ (玉嶋亮)、YouTube (予想屋マスター) なんか、関係ねえよ」と言えるところまで行って、予想屋として独り立ちしたと言えると思います。

予想屋マスター

僕の動画もMTPも玉嶋さんのメルマガも見ないで、まず自分で考えてみた後で、答え合わせのように僕たちがどのように分析しているのかを見て答え合わせをするような人は競馬がどんどん上手くなる気がしますね。

玉嶋亮

はい。レースが終わるまで見ない人は、本当に上手くなりますね。『カイジの鉄骨渡り』じゃないですけど、分かります？

予想屋マスター

分かる。そういう人は本気度が違う。

玉嶋亮 本気度もそうですけど、怖さがあるじゃないですか。自分で予想して、お墨付きがない状況で馬券を買うってことですね。特に、自分が大穴を買おうとする時に、いつものレート、或いはレートを上げて全ツツパできるか？

予想屋マスター

競馬の予想って、期待値はあるにしても、結局は的中が正義じゃないですか？僕らだって間違えることはあるし。。僕らは答えじゃないんですよ。だから、僕らの答えが答えだと思っちゃう人は間違っていると思います。競馬の場合は、結果が答えなんです。いくら、この競馬の教科書を読んで、論理を踏襲するところまでは良いけど、僕や玉嶋さんの考えと近くなって満足しているだけでは、僕らを超えられないよね。僕らを超えていこうとするくらいの意志がなければ、僕らと同じレベルまで到達するのも難しいと思います。

玉嶋亮

その通りです。私の立場で生意気なことを言わせてもらおうと、予想屋マスターや Paddock Lab が相手であっても、自分の芝オープンの予想は絶対に曲げません。私はプロの予想屋ではないですから、お二方の格下です。それは呑み込んだ上で、芝オープンでは、私よりも時間を掛けて予想、馬券の検討をしている人間はいないと思っていますから、誰が相手だろうと、絶対に負けたくないです。私が格下であることは呑み込んだ上で、食い下がってでも、這いつくばってでも、自分がトップを獲れるようになりたいと思っています。逆の言い方をすると、そこまで強い覚悟がないと、この世界で生き残っていけないと思っています。お二方の金魚のフンに成り下がって迎合しているようでは、ハナシにならないと思っています。だから、私が、競馬がある程度できるようになった人には、「レースが終わるまで、MTP や予想屋マスターの直前解説は見な」と言います。

予想屋マスター

なるほど。

玉嶋亮

何でしょう？しびれる緊張感。。

予想屋マスター

答えを見るのと見ないのでは、その予想に対する本気度が違うから、やっぱり上手くなるスピードが全然違うよね。

玉嶋亮

そうそう。大穴にいつものレートで、自分の予想だけを使って、そこに突っ込めますかって？いう。

予想屋マスター

『第0章 雑談』のまとめとしては、競馬が上手くなる一番のポイントは人の予想を見ずに、まず基本を突

き詰めて自信を持って馬券を買えるようにならなきゃねって言うことでいいですか？

玉嶋亮

その通りだと思います。

第1章 アマチュアの流儀 –方針を決める–

予想が上手いだけでは、競馬で勝てない

勝つための競馬は「楽しくない」

予想屋マスター

では、順番に第1章から行きましょうか。アマチュアの流儀ですね。まず、概要で予想が上手いだけでは馬券は勝てないよねってことを書いてあるのが、この第1章ですね。ここは何か思いがあって書いたんですか？

玉嶋亮

まず、競馬って一般的に予想したら馬券を買うというのが普通で、「馬券を買うな」って言う人って、世の中にほとんどいないんですか？

予想屋マスター

予想を売っている立場で「馬券を買うな」って言っているのは、僕が知っている範囲で鈴木さんと僕くらいかも、と思います。玉嶋さんの場合は、『競馬の教科書』で勝つための論理を売っているから、分かるんですけど。

玉嶋亮

はい。有料予想屋の中で「馬券を買うな」を公言するのは、私も予想屋マスターと Paddock Lab しか見たことがありません。逆の言い方をすると、単品売りでメインの予想を出しておいて「馬券を買うな」とは売り手の立場として売上減のデメリットが大きくて伏せたいのが当然だから、当たり前と言えれば当たり前ですが。

予想屋マスター

ですよ。何故？って、馬券買うなと言うと、予想を売りづらくなるんですよ。自分たちの実入りというか、目先の利益に直結しますから。例えば、今日の2023年大阪杯。大阪杯は期待値が低いから馬券買わないでねって言った瞬間に、予想の売り上げが落ちるわけですよ。特に、単品売りの予想屋さんは毎週1レースの予想しか売らない訳だから、今週の売上を放棄しますなんて、なかなか言えないんですよ。だから、予想を提供している人は常に馬券を買え買えと言う。もうちょっと踏み込んで言うと、地方競馬の場立ちの予想屋さんとかは予想販売だけでなく、目の前のお客さんからご祝儀が欲しいから、何でもかんでも馬券を買わせる構図です。当たればご祝儀くれとなるわけだから。そういう意味で言うと、予想屋さんって自分の身銭じゃないからこそ、お客に馬券をバンバン買わせたほうがいいんです。仮に当たったら予想も継続して購入してもらえる上に、ご祝儀ももらえるってなると馬券を買うなって言える予想屋がほとんどいなくなるのは当然なんです。お客様に馬券を買わせるという行為は、予想を売る側からすればリスクがない。このようなことから、自分の利益を減らすことに直結する馬券を買うなって言える予想屋って意外と少ない。あと、もう一つ言えることは、予想屋を25年以上やっていて、競馬ファンが馬券をやめられないってのは、馬券を買わないで当たったレースのことばかり覚えていて、買わないと損すると思っちゃうんですよ。その感覚から抜け出せない。馬券を買わなくてよかったという事実がその何倍もあるのにそれは覚えていないだけで。

玉嶋亮

結局、期待値が高かろうが、低かろうが、「当たったらショックを受けてしまうから、予想した通りの買い目で、情性で買ったみたいなの」ってことですよね？

予想屋マスター

予想をしたら、馬券を買いたくなる気持ちは分かりますよ。安かろうが高かろうが何だろが、もしこの予想が当たった時の利益をまず頭の中で考えすぎていて、当たりもしないのに、当たった時の利益だけを計算して、「これ買わなかったらメツチャ大損やん」っていう発想から抜け出せないんですよ。買わなきゃ損するって話が先になって、みんな馬券を見送れないっていう思考になっているのだろうな、という感じがするんですよ。アマチュアの流儀っていうのは、予想に費やせる時間がプロほどないよねっていうところから話がスタートしている。競馬って、予想力と馬券力の2つがあって、よくどちらが大事ですか？って質問がありますよね。僕の結論は、どちらも大事。でも、多くの競馬ファンが予想力さえあれば、何を買っても儲かるよねって発想を捨てなきゃいけないよねっていうのが第1章だと思うんですけど。そのあたりはどうですか？

玉嶋亮

よく控除率という言い方はあるんですけど、ちょっと言い方を換えると、要は1万円の馬券買うと2,500円前後の参加料をJRAから抜かれるんですよ。だから、1万円の馬券を買うとして、2,500円前後の参加料を払う意味があるの？っていうところが大事だと思います。だから、そういう意味でいうと、例えば2023年小倉大賞典のようなレースだと、レッドランメルトのように、そんなに強くない馬が人気を背負っているとチャンスというか、馬券を買う大義名分が立つんですよ（強くない馬が人気を背負っていれば、そのレースの期待値が高い）。

予想屋マスター

そうね。あとは力の差がハッキリしすぎているような場合（どうやっても通用しない馬がいっぱいすぎる場合）は、実質少頭数のレースと変わらないから、馬券の購入を見送るべき（控除率の突破が極めて困難）。そういう意味で見ると、本当に競馬ファンが思っているよりも控除率の壁って高くって。例えば、株式取引の手数料を控除率に置き換えると、控除率って1%未満じゃないですか。それを考えると、競馬の25%って、まあまあヤバイよね。

玉嶋亮

そうなんです。自信のあるなしではなくて、いつも私が気にしているのは人気を背負っている馬が本当に強いのか？っていう時が大きく儲けるチャンスで、それが1頭、2頭飛びそうな馬がいるレースを高い精度で選び続けられれば、プラス収支に持ち込めるんですよ。好走する馬は不利等を受けて負けてしまうことがあるから水物でも、強くない馬は、恵まれても凡走する可能性が高い訳ですから。

予想屋マスター

競馬の控除率25%の恐ろしいところって、均等払い戻し（買い目の払戻金額が同じになるようにそれぞれの買い目の金額を決める方法）で全通り100万円分の馬券を買えば、1レース終わると75万円になりますよね？それを12レース繰り返すと、100万円がいくらになると思います？75%の12乗になるので、なんと、5万円になっちゃうんですよ。競馬ってやばくないですか？笑 これくらい、馬券を買い続ける競馬ファンは損し続けているんですよ。これを見れば、競馬って馬券を買わないのが一番得に決まっています、馬券を買えるタイミングはかなり限定されているんです。玉嶋さんもよく言っていますが、条件の良い（期待値の高い）時にだけしか馬券は買えないよね、というのを徹底するしかないんです。次に、ベタ買いの限界は100%。

競馬予想のコンテストがあったとしたら、最大の回収率はどれぐらいだと思いますか？

玉嶋亮

どうでしょう？『競馬の教科書』で、「限界は 100%」と書いていますが、多分無理なんですよ。ベタ買いで 100%以上いくのって。

予想屋マスター

僕もそう思います。例えば、JRA で年間 3,000 レースをどんなに天才が予想しても、多分 100%前後かな？と思います。多分、それも年によってバラツキがあるはずなので、良い年は年間 100%を超えても、毎年は維持できないはずですよ。僕も予想でも、ベタ買いなら 90~95%が限界です。そういう意味で言うと、ベタ買いで回収率 100%を超えるって、ほぼ不可能なんですよ。予想力をどんなに上げたとしても、全てのレースを予想して馬券を買い続けていたら回収率は 100%いかないよね、ということなんです。こういう話をすると、「いやいや、俺は絶対はずれない自信があるレースがあるからそこだけ全力勝負すれば絶対儲かる」って言う人がよくいるんだけど、それを外した瞬間に、挽回不可能な負債を負うし、過去に外れたことを言わないんですよ。

玉嶋亮

本当にその通りで、大勝負がそんなに大事なら、ずっと自信のあるレースだけで大勝負すれば良いのに、そうではないんでしょう？詭弁以外の何物でもないと思いますね。普通に予想して馬券を買えるレースって、見送り、見送り。。だらけで、本気で回収率 130%を叩きにいかうとすれば、予想しても期待値の高い買える買目目がなく、予想自体がお蔵入りになっちゃうことが多いじゃないですか？競馬の教科書でも表でまとめていますが、私の場合は 2022 年の参戦率は 33.5%でした。マスターの予想を使って馬券を買う時も、配当の安い買目は捨てないといけないから、もっと低いです。死に目だらけで、オッズフィルターをかけて、生き残る買目は厳選したら 20%くらいですね。それについてはどうですか？

予想屋マスター

オッズフィルターを何倍にするか？は議論の余地がありますが、それくらいが妥当かと思います。でも、玉嶋さんも、期待値の高い買目を見つけるために、馬券で色々工夫していますよね？オーソドックスな流し馬券だけじゃなくて、普通ならやらないことをよくやっているようで。

玉嶋亮

複勝チャレンジなんて、正にそれです。単勝、馬単、馬連、三連複と色々検討して、どこかに突破口がないか？と考えた時に、「実は複勝を買えるじゃん」となって生まれたのが複勝チャレンジです。ただ、複勝チャレンジの場合は、的中率、回収率ともにそこそこ良い数字を叩いていますけど、高いレートで突っ込んで、万が一ミスったら大変なことになります。堅そうだからと言って、そこに高レートで突っ込むのは愚の骨頂なんですよ。だから、同じようなレートで、設計回収率 130%に収束していくように、粛々と取り組んでいくしかありません。

予想屋マスター

どんなに自信があったって、よほど吟味しない限りは、基本的に配当が低い買目を買ったら、どんどんやられちゃうよね。脱線しましたが、なかなかベタ買いで回収率 100%を超えるのは難しいよねという話は、間違いなことと思うんですけど、どうですか。

玉嶋亮

仰る通りです。Paddock Lab の鈴木さんとも「ベタ買いなんて、あり得ないよ」という話をよくするんですが。私は「馬券を買うかどうか？」の局面にいけば、とにかく人気順とオッズ構成を見ますね。この時に、世間の評価と自分の評価って同じことという方が圧倒的に多いと思うんですよ。この時は、仕方ないから撤退して見送りが妥当です。逆に、チャンスなのが、世間の評価と自分の評価に乖離がある時のみが、馬券を買えるチャンスです。そのチャンスが訪れるまで、待って、待って、待ち続けます。『競馬の教科書』でも書きましたけど、競馬って、麻雀で言う配牌が良くなければ、自由に見送れるんですよ笑。出馬表とオッズの並びが私にとっては配牌で、気に入らなければ「やーめた」で良いと思っています。

予想屋マスター

その配牌の良し悪しを見抜いて、参戦するレースと見送るレースを見極められる能力が予想力且つ馬券力だよね？

玉嶋亮

確かに笑。それを見抜く実力がないと、配牌の良し悪しは分かりません。それを見抜くために、馬券を買えるかどうか分からないレースの週中予想を粛々と繰り返す訳ですが。

予想屋マスター

では、各論に入りましょう。どういう時に期待値が高いと言えるのでしょうか？玉嶋さんとしてはどうですか？

玉嶋亮

予想を普通にやって、配牌が良い、もとい、期待値が高いかどうか？を確認する段階になった時に、予想で印を打った序列と、世間の人気の序列をまずは見ます。あとは、明らかに能力が傑出している馬なのに、何故か人気がない時。2023 年日経新春杯ヴェルトライゼンデなんて、典型的でした。多くの競馬ファンの場合は、そもそも参戦できるレース数が少ないから、収束の問題を考えると、『H-H 型（高的中-高回収型）』寄りのレースをバシッと当ててそこそこの配当を拾っていくのが現実的には実効性が高いです。穴で一撃を狙いにいく『L-H 型（低的中-高回収型）』（競馬の教科書『マトリックス』より）だと、やっぱりなかなか当たらないから、気長にやっていく必要がありますからね。

予想屋マスター

ああ、なるほど。

玉嶋亮

自分の予想の序列と、世間の人気の序列が似通っている時は、控除率を突破するのが難しいと思います。だから私はマスターの予想を使う時もそうなんですけど、マスターの印が回っている馬がある程度上位を独占していて、下に穴馬がポンポンっている時ってあんまり参加しません。だって、難しいじゃないですか？◎（1頭）、○（3頭）が上位人気を独占している場合って、人気を背負っている馬がそもそも強いから、そこに穴馬が割って馬券圏内に入っていくというのは、そんなに簡単じゃありません。こういう時でもたまに穴がくる時はあるんですが、それはそれ。ガチガチの決着になることの方が圧倒的に多いから、「買わないと後悔する」という発想は根本的に間違いと思っています。当たる時は当たるんですけど、ガチガチ決着の時の無駄馬券がジワジワとボディブローのように効いてきます。ハズレを積み重ねていくと、高配当を獲っても、ハズレのダメージが大きすぎて挽回は困難だと思いますが、どうですか？

予想屋マスター

分かります。自分の予想で儲けるって、誰も買わない時に「如何に自分の予想に自信を持って、そこに打ち込めるか？」ということしかないんですよね。逆に、自分の予想と世間の予想が同じなら、「みんな買うなら、俺は買わなくていいや」と言い切れるかどうか。

玉嶋亮

逆に、上位人気が2,3頭パンパンと消えている場合だと、的中した場合に配当が跳ねます。その時がチャンスで、予想がピタッとハマった時に配当がドカンと跳ねますので、そういう時を狙い打ちますね。「誰も買わないなら、私が買うよ」というスタンスです。自分の予想力に自信を持ってないと、なかなかそこまではできないと思います。私の場合は、芝オープンクラスしかやらないので。その予想と馬券の構築に、私以上に時間をかけている人って、多分世の中にいませんから。

予想屋マスター

僕が思うのは、逆に予想力がなくて競馬の怖さを知らないからこそ、馬券を買いたがるんですよ。前にも言った通り、当たった時のことばかりを考えるから。どんなに頑張っても、外れる時は外れるのが競馬です。僕は馬券を買うのが怖いし、無駄な馬券を買えば買うほど損する構造を知っているからこそ、安い馬券は買わない。安い馬券は買うとジリ貧だよ。

玉嶋亮

あと、逆にあれかも。自分の予想がみんなと同じ時の方が、競馬ファンは馬券を買いたがる傾向があるかも。

予想屋マスター

それは日本人的な発想なんですよ。赤信号みんなで渡れば怖くないみたいな感じで、みんなが同じ予想だと安心するのが日本人。だからこそ、Twitterとかを見て自分と同じ予想する人がいたから当たりそうみたいな感覚に陥る。玉嶋さんと同じ予想になってきたから競馬の予想に自信が出てきたって人がいるけど、あくまで競馬の答えはレース結果であって、玉嶋さんの予想じゃないんですよね。誰かに依存しているようでは、競馬の予想としてはまだまだ。

玉嶋亮

だから、それは逆で、例えば Twitter を見ていて、「俺、この大穴を本命で買いたいけど、俺しかいねえじゃん」っていう時に「ラッキー」と思って、どれだけ突っ込めるかですね。勝てるメンタリティーは。かずまさんみたいな笑。

予想屋マスター

かずまさんは、頭おかしいからな笑。でもやっぱり、かずまさんくらい突き抜けていないと、馬券で勝つのはなかなか難しいと思うよ。2023年東京新聞杯の時も、僕や治郎丸さんが「内前有利のトラックバイアスでさすがにちょっと人気すぎよ？」と苦笑いしても、「いやいや、俺はナミュールでいいんだ」って言い切る。かずまさんは突き抜けすぎているけど、他人の予想に惑わされているうちはまだまだだよ。僕も毎日真剣にやってきたから誰にも負けない予想ができるっていう自信があるけど、自分の予想に信念もって誰にも負けないというレベルになるのは相当難しいよね。

玉嶋亮

そう思います。

予想屋マスター

2023 年当初に『新春コラム』を書いた方でも、今年に入って不調な方もいるし、今年に入って良くなった人もいる。短期で見ると、高配当を当てれば回収率がガツンと跳ねる。それを繰り返していても、長期に亘ってトータルで勝ち続けるのは難しいかなという感じはしています。

玉嶋亮

それについては、我慢強く、辛抱強くやるしかないかな？とは思っています。

予想屋マスター

僕が思っているところで言うと、楽しみたいってなると、やっぱり馬券を買いすぎてお金がなくなるんですよ。僕はね、競馬を楽しむのは大賛成なんです。ただ、やっぱり楽しみだけを求めて馬券を買いすぎてパンクしちゃう人も沢山見えてきました。玉嶋さんも同じだと思うけど、楽しみながら勝とうと思うと、どうしても無理な場面ってあるじゃないですか？

玉嶋亮

その通りです。Twitter だと、どうしても競馬ファンを煽動しやすいのが怖くて、「競馬で本気で勝とうと思ったら、楽しみすぎるのは…」とやや極論に寄せにいつているんですけど。。。競馬って、楽しいのが原点だというのは私も同意です。だから、競馬を長く続けていくためにも、楽しみながらもどこかでバランスは必要と思います。『競馬の教科書』で言いたかったのは、楽しいのが競馬のはず。でも、そこに寄せすぎてしまうとどんどん大事なお金が失くなって。。。「もう競馬なんか嫌だよ」となってしまうはずですから。何事もバランスが大事かな？と思います。

私の例で言うと、2022 年ダービー、天皇賞秋、ジャパンカップの馬券を買っていないんですよ。答えはシンプルに稼げる局面じゃないから買わなかった。例えば、ダービーは、競馬ファンが挙って「イクイノックスとドウデュースどっちが強い？」となっている状況で、見送らないといけなかったんです。私の場合は、『競馬の教科書』で書いていることを徹底すれば勝てますよ」ということを示さないといけないですから、そもそも競馬を楽しむ身分じゃないんですけどね。なんでしょう？観光バスの添乗員さんみたいなイメージかな？競馬ファンの皆様に、競馬を楽しんでいただくために、私が代行して、できる限りのガイドをするというか。おかしいですかね？

予想屋マスター

いや、その通りだと思います。僕は 27 年間、お客様に僕の子想を使って競馬を楽しんでいただくスタンスをずっと貫いてきていますから、それはよく分かりますよ。それこそ、地方競馬までも毎日やっていて、どこまでも馬券を買い続けるっていうのはお金が無限にあれば楽しいですよ。でも普通の人だとお金が続かなくなるんですよ。お金がなくなれば、本来は楽しいはずの競馬も楽しくなくなるし、パンクしちゃうんですよ。競馬は楽しんでほしいという気持ちもありますが、楽しみたいっていう気持ちだけじゃ続かないよねと。一方で、本気で競馬で儲けたいとか本気で予想を頑張ろうとすると、競馬がだんだん面白くなくなるのも確か。そのバランスは結構難しいですよ。

玉嶋亮

仰る通りです。「楽しくないよ」と言うだけだと、夢も希望もないんですけど、やっぱり、競馬で勝てると

面白いじゃないですか？競馬で勝つための過程って、予想、回顧。。。の退屈で単調、大変なことがほとんどで、そこに楽しさを見出すのって、難しいと思うんですよ。でも、何でしょう？やっぱり、その中で勝てれば、競馬の面白さが分かると思うんです。私がそうだったので。本当は、それを前面に押し出したいんですけど。ただ、それを読者に強いすぎると、ギスギスするのも分かっています。これも極論なんですけど、それだと仕事と変わらなくなっちゃいますから。。。何事も中庸。そこから先の話で、「とにかく利益を徹底的に追求したい」と言う方は、私と同様に、どこまでもシビアにやってくだされれば良いかな？と思います。「楽しみながらやって、お金を減らさずに損をしない程度にやりたいのか？」「ほどほどにやって、そこそこ稼ぎたいのか？」「楽しくなんてなくて良いから、徹底的に利益を追求するのか？」落としどころを選ぶのは読者の方々の、私はその選択肢を提供できれば、それで良いと思っています。

予想屋マスター

それについては、色んなお客様と付き合ってきたから、よく分かります。自分で予想をして馬券を買おうと、どんどんお金なくなっちゃうけど、僕の予想を使って馬券を買ってれば、損をしないでずっと好きな趣味の競馬をやり続けられているお客様は、凄く楽しそうに長く競馬を趣味にできています。

玉嶋亮

それは、物凄く分かります。プロの予想を買って馬券を買おうって、そういうことだと思います。でも、マスターの予想を使って馬券買って、長期の目線で損するなんて、あるんですか？

予想屋マスター

あるよ。意外とみんな、僕の予想の買い目以外や配当の安い無駄な馬券を買っているんですよ笑 例えば、重賞やG1だと、僕が馬券で儲ける目線で「このレースは見送った方が良い」と言っても、大きいレースだから少額でも楽しみたいと言って馬券を買う方が大多数です。一方で、やっぱり競馬ってレジャーだから、楽しい部分もないと、なかなか続けられないという側面もあるので、お客様それぞれの価値観で、僕の予想を上手く使ってもらえればとは思っています。

玉嶋亮

なるほど。そういうレースでトントンくらいの収支でいって、稼げる高配当が期待できるレースでキッチリ回収して、トータルコーディネートでプラス収支に持ち込む、というのが落としどころの1つかも知れないですね。

予想屋マスター

その通りです。「ウチの予想で儲けるためには高配当しか買わない」とか、結構厳しいことを言うんですけど。。。でもね、せっかく僕の予想を使って馬券を買うのなら、それで儲けて美味しいものを食べに行ったり、旅行に行ったり、有意義にお金を使ってもらいたいと思うじゃないですか？

玉嶋亮

結論です。『競馬の教科書』のカバーにある『設計回収率 130%』を叩きたいんだったら楽しみを犠牲にするしかなくて、条件の悪いレースは見送る覚悟を決めないと無理ですよ。G1だろうが何だろうが、条件の悪いレースは徹底的に見送らないと。一方で、先程マスターが仰っていたように、楽しみながらでも、100%超えも十分いけるとは思うので。そこが落としどころですかね？

ビギナーズラック 勝つためのヒントがココにある

予想屋マスター

ビギナーズラックの話がちょっと書かれていたんだけど。競馬の予想って最近オッズ見ていて思うんだけど、誰が見ても1着1着と好走続きの馬よりも、ちょっと運が悪くて展開の不利で負けたみたいな馬のほうが人気になったりとか、ちょっとマニアックな好みで馬が売れていたりもしますね、最近の競馬は昔と違って。

玉嶋亮

多分、影響力の高い方々が強く推すんですよ。

予想屋マスター

なるほど。

玉嶋亮

その予想で当てれば、格好良いじゃないですか？私のスタンスは、「普通に強いんだったら、それで良くね？」ということです。本書の中でも紹介したジャパンカップのアドマイヤムーンとか。

予想屋マスター

配信で1番人気ばかりを推していると、「いつも一番人気ばかりだよね」みたいに言われちゃうから、ちょっとひねって自分のオリジナリティーを出そうすると、ちょっと違う馬を推すしかないよね。

玉嶋亮

でもそれって、実は凄く危ない発想で、2番~4番人気あたりで、なんでしょう。。？何となく変化球というか、奇をてらったりして当てれば格好良いじゃないですか？

予想屋マスター

やっぱりそれじゃないと差別化できないというか。自分が注目を浴びられないんで。

玉嶋亮

でも、それって実は厳密な意味での予想じゃないです。毎週毎週、真っ当な予想を配信し続けていけば、無理に注目を集めなくたって良いはずですよ。マスターのYouTube『Q&A』『直前解説』なんて、正にそれじゃないですか？「面白いかな？」と訊かれれば、全然面白くないし。私もよく「普通のことしか言っていない」と言われますけど、普通じゃないことをやり始めると、どんどんおかしな方向へ向かって行って、知らないうちにボロボロになるのが関の山と思います。

予想屋マスター

僕の場合はプロだから、そもそもウチのYouTubeは大金をブチ込むエンタメ系の面白コンテンツではないからね。

玉嶋亮

例えば、本書の中で紹介している2022年ヴィクトリアマイル。あの時の2番人気は2頭同じオッズ5.4倍でファイナルージュ、ソングラインだったんですよ。一方で、ソダシが全然人気なくて5.7倍。ファイナルージュ、ソングラインは、G1未勝利、ソダシはレース前に桜花賞、阪神JFを勝っていて、既にG1を2勝し

ていました。

予想屋マスター

実績だけで見れば、確かに 2.5 倍前後でもおかしくなかったよね。

玉嶋亮

ソダシは G1 で既に 2 勝をしていて、ソングラインとファイナルージュは左回りのマイルをそれぞれ勝っているんですよね。重賞で勝った？違う、ファイナルージュは 2 着か。

予想屋マスター

東京新聞杯ですね。

玉嶋亮

ただ、ソングラインとファイナルージュは、如何にも適性がありそうだったというか。一方で、ソダシは G1 で 2 勝。桜花賞と阪神ジュベナイルフィリーズも勝っている。どれが強いのか？というハナシ。マスターも、その時予想はソダシだったんですよね。

予想屋マスター

そこはソダシじゃなかったですよ。

玉嶋亮

ごめんなさい。レイパパレとソダシの 2 頭でした。

予想屋マスター

内前有利の高速馬場だったからね。あの日は。

玉嶋亮

そうそう。レイパパレが楽に先行できるかなと思ったけど、スタート直後にトラブっちゃったから、あれは仕方ないです。私がよく言う最大出力が不発な時って、あんなもんです。

予想屋マスター

やっぱり、ビギナーズラックって、情報があまりないから競馬新聞とか、識者の言うことを素直に聞くんですよ。それでかつ、識者の言うことを聞いて、素直な視点で競馬を俯瞰できて、こっちの方が強いじゃんっていう単純なハナシで予想する。過去のレース結果だけを素直に見ているからこそ、ビギナーズラックがあるんだよね。逆にちょっと競馬を覚えてくると、先程言った YouTuber と同じで変化を加えたくなるんだよね。でも、大事なものは、そこじゃない。

玉嶋亮

そう。だから適性に傾倒したり、追い切り、パドックに傾倒したり。。

予想屋マスター

『競馬の教科書』って、『能力比較』『トラックバイアス』を中核にして、それ以外はオマケ扱いしているじゃないですか？

玉嶋亮

やっぱり『能力比較』『トラックバイアス』。この2つが中核なので。結局、『能力比較』『トラックバイアス』ファクターから見ると、『血統』『追い切り』『走法』『パドック』その他諸々のファクターは劣後なんですよ。『能力比較』『トラックバイアス』で予想したら、9割以上終わっているから、追い切りとか血統、走法に興味を示したところで、中核のファクターで予想が固まっているから、結論は動かしようがないんです。

予想屋マスター

まったく完全同意です。「マスターって追い切り分かってねえじゃん」とかいろいろ言われるんだけど、それは仰る通り。僕は別に追い切りや血統に全く価値がないとも言っていない。出目や過去10年の傾向データは価値がないと思っているけど。血統や追い切りは価値がないのではなく、優先順位が低いよと言っているだけ。『能力比較』『トラックバイアス』の重要ファクターにそれらを加味したとこで、もうちょっと当たる予想になるかもしれないけど、ただそれを加味する時間があるなら『能力比較』『トラックバイアス』を極めたほうが当たるよねという話をしているだけ。つまり、『能力比較』『トラックバイアス』以外の予想ファクターは馬券的中という観点だけで見ると、重要度が低いよねって話をしているだけなんだけど、あんまり言うと、パドック派やら馬体派やら調教派たちからやたら絡まれる笑。

玉嶋亮

パドックなんて、大変すぎるから、やろうとしたことすらないです。鈴木さんにパドックをどうやって診ているか？を訊いたことがあるんですが、表面的に理解できましたけど、自分が実務で回していこうと思ったら、絶対無理です。本当に凄い。

予想屋マスター

パドックなんか凄いな。そこは、鈴木さんがメチャメチャ馬を診ることができるから。鈴木さんレベルの人が言うならアグリーなんだけど。例えば、大阪杯でジャックドールが強くて単騎逃げで展開に恵まれるのが分かりきっているのに、能力的に足りない馬のデキがどんなに馬が良くて、通用しないものはこないでしょ？というだけのハナシ。そういう全てを加味した時に何のファクターを重要視するかって言うと、多分一番結果が出やすいのは、結局のところ『能力比較』『トラックバイアス』。

玉嶋亮

『能力比較』『トラックバイアス』って受験勉強と一緒に、効果的に点数を取りやすいんですよね。

予想屋マスター

そうそう。

玉嶋亮

ここを徹底的に叩いていけば、それなりに精度の高い予想ができると思っているので、とにかくこの2つをやらないと。

予想屋マスター

僕が言いたいのはもう1つあって、何で僕が他の要素を入れないかと言うと、トラックバイアスと馬の能力比較以外の要素を入れると、知らず知らずのうちに、少しずつ予想がブレていくんだよね。

玉嶋亮

困るんですよ。そうわかります。

予想屋マスター

例えば、『能力比較』『トラックバイアス』以外のファクターを入れ始めると、凡走した理由が「体調だよね」「仕上がりだよね」って話になっていって、全部それで片付け始めるんですよ。要は、レースの後に正しいフィードバックできない。

玉嶋亮

その通りです。よくわかります。

予想屋マスター

それがダメで、そういう色々なファクターありますよねっ人って、レース内容を正確に分析できなくなって、つまりは自分のだめな予想を反省しなくなっちゃう。そこがホント一番良くないなと。ダメな予想を反省しなくなるから、予想がブレブレになって、自分がどこへ進んでいるのか？が分からなくなっちゃう。

玉嶋亮 なんでしょう？やっぱり『能力比較』『トラックバイアス』の2つを私は大事にしてほしいというのは予想の手順があるからですね。そこに色々なファクターを入れちゃうと、思考がグチャグチャになっちゃうと思うんですよ。やっぱり、自分が可愛いから、「今日は仕上がってなかった」「騎手が思った通り乗ってくれなかった」で片付けちゃうと、楽っちゃ楽だし。でも、それだと予想の精度は一生上がりませんから。

予想屋マスター

人間ってそんなに優秀じゃないからね。全てのものを加味して予想なんかできないですよ。だからこそ、単純化するためにも『能力比較』『トラックバイアス』。これに尽きる。結構クドク言ったね笑。

玉嶋亮

そうそう。だから、本当にデキ落ちしていて負けたんだろうなっていう時はあるにはあるんですよ。でも、それを言い始めちゃうとキリがないから。

勝負するフィールドをあえて狭める 芝オープンクラスへのこだわり

予想屋マスター

では、次に行きましょうか。僕は全レースを分析して予想していますが、玉嶋さんが芝オープンの予想をする場合、具体的には一週間どのようにやっているんですか？

玉嶋亮

基本的には、競馬の教科書にある通りで、月曜日から金曜日にかけて、後に出てくる『第4章 必勝ルーティン』のサイクルを毎週繰り返しています。特別登録のある馬については、全頭的能力比較をする必要がありますから、全部分析していますよ。どちらかと言うと、芝オープンクラスのレースは、レース直後に馬券を買う買わないに関わらず、全て回顧しているので、『復習』に近いかも。当時の回顧に修正を入れる必要があるかどうか？

予想屋マスター

回顧の微修正、見直しですね。これって、意外とやっている人は少ないかも。

玉嶋亮

例えば、2022年朝日杯FSなんかが典型的で、本来なら2歳チャンピオンを決めるレースなんですけど、ドルチェモア、レイベリング、ダノンタッチダウンがその後に低調なレースを繰り返したじゃないですか？だから、朝日杯FS当時から、これらの馬が凡走を繰り返していく過程で、朝日杯FS組の評価を下方修正していく必要があります。

予想屋マスター

分かります。これって、対戦を繰り返していかないと、分からないんですよ。

玉嶋亮

そうなんです。だから、レース直後の回顧が果たして正しかったのか？を再チェックする必要があるんですけど、なかなかタイミングがないとできないじゃないですか？だから、レース1週前に、回顧の見直しをする意味で1頭ずつ見直します。読者の方々にちょっと勘違いされているのでは？と思ったので、この場を借りてお話をすると、私が『週中予想』で書いている分析のTwitterって、過去レースを初見で見て書いているのではなくて、レース直後の回顧を再チェックして書いているんですよ。鈴木さんともお話をしたことがあるのですが、Paddock LabのMTPでも、MTPを出したら出して終わりではなく、それを見直し続けて途方もない作業の繰り返しをしているとのことでした。具体的には、レースが終わる度にTPの採点をやるそうですが、その際に、「実は過去の●●のレースはレベルが低かった」修正が必要な時は、そのレースに出ていた馬のTPを全て見直しているそうです。これがどれだけ大変な作業か？は想像に難くありません。世の中の指数で、そこまでやっているのって、果たしてどれくらいあるんですかね？当たり前やらなきゃいけないことなんですけど、突き詰めてやろうとすると、これがまた大変です。

予想屋マスター

そこまでやらないと、なかなか週中予想（能力比較）の精度って上がらないよね？初見でやろうとしても、見落としだらけになるはずだし。

玉嶋亮

その通りで、レース回顧は全体のバランスを中心に見ますが、レース直前の週中予想では、特定の馬に注目しますから。レース回顧をロクにせずに、いきなり週中予想をやったところで、「木を見て森を見ず」になるはずですから、マトモな見解は書けないと思いますね。過去のレースの全体のバランスやメンバーレベル、トラックバイアスが頭に入っていないと、個別の分析なんて、絶対に無理ですよ。

予想屋マスター

先日、お客様のQ&Aに答えたんですが、その中にすごいピンポイントの質問があったんですよ。パッと新聞を見てこのレース期待値低そうだから予想をやめたり、期待値が高そうだから、真剣に予想したりというようなことをすべきですか？という内容でした。

玉嶋亮

なるほど。マスターが言いたいのは、真剣に予想しないと、期待値が高いかどうか？なんて、分かる訳ないですね、ということですね？

予想屋マスター

そうです。これはね、僕でもそんな簡単な話じゃないですよ。真剣に予想した結果、期待値が高いか低いかなんです。僕がいつも思うのは、競馬ファンがみんなそんな感じだから、実はよくいうハンデ戦と違って実は大して配当がつかないじゃないですか？

玉嶋亮

その通りだと思います。例えば、2023 年日経新春杯ヴェルトライゼンデなんて、メンバーを考えれば単勝 1 倍台でもおかしくなかったですからね。その逆も然りで、穴かな？と思っていた馬が過剰に人気を背負うパターンも結構ありますからね。オッズなんて、結局フタを開けないと分かりません、と思いますが、それについてはどうですか？

予想屋マスター

そうですね。だから、週中予想の段階で「期待値が低そうだから予想やめる」とか「このレースでは面白い穴馬がいる」とかっていう発想自体がおかしいんですよ。

玉嶋亮

週中予想は能力比較までに留めておいて、枠順とオッズがある程度分かってから判断するということですよ。手順を言うと、週明けから私は、メンバーを見てなんとなく序列、番付的なものを作っておきます。それで週末になるとオッズが出るじゃないですか。そこで自分の評価と乖離があった時にチャンスが生まれるんですよ。だから、それをすっ飛ばしてこのレース期待値高そうですか？とか。週中に今週は面白そうなレースがありますか？っていう考え方は間違いで、週末にフタを開けてみないと分からないんですよ。

予想屋マスター

次は、この章の冒頭にあるクラス構成のピラミッド型についていきましょうか。

玉嶋亮

これについて、「じゃあ、なんでオープンなの？」「未勝利じゃダメなの？」という質問をよくもらうんですけど、オープンクラスって、最もレース数が少ないんですよ。芝オープンだと、たったの 200 レース。下級条件に行けば行くほどレース数が増えちゃうので、やるべきことが無限に増えていきます。とてもじゃないですけど、そこまでやろうとすると、どう考えても消化不良に陥ります。

予想屋マスター

敢えて分かりやすく言うと、JRA のレースって、午前中の 1~6 レースぐらいまでが未勝利クラスだからね。その後に 1 勝クラスが 2、3 レースあって、2 勝クラスがみたいな感じだから、ほとんどの馬が未勝利や 1 勝クラスにいるかというところですよ。

玉嶋亮

もう少し具体的に言うと、芝オープンだと 300 頭くらいしかいないんですよ。それくらいだったら、記憶力に頼っても、真剣にやれば覚えられるじゃないですか？

予想屋マスター

馬の特徴もね。

玉嶋亮

そうそう。だから、それから下のクラスをやろうとすると、どんどん大変になるから、いっそのことやめた方が良くってというのが、私の考えです。私はプロの予想屋じゃないから、そこまでできません。下級条件については、マスターの予想に外注して、自分では予想するのを放棄しています。できもしないことをやろうとして中途半端な予想で馬券を買えば、大事なお金がどんどん失くなっていくのが目に見えていますから。

予想屋マスター

でも、玉嶋さんの芝のオープンの300頭ですら覚えるのは結構大変ですよ。

玉嶋亮

大変ですよ。大変だけど、そこまでだったら多分年間300時間だから普通に1日1時間ぐらいずつ本業を別に抱えている人がやっても、現実的に出来るという想いで書いています。落としどころというか。

プロとアマチュア 絶望的な差

予想屋マスター

では、次に行きましょうか。『プロとアマチュアの差』。これって、玉嶋さん結構Twitterでよく呟いているじゃないですか？これは何か特別な想いがあるんですか？

玉嶋亮

はい。先程言った通りで、プロの予想屋でない我々が下級条件で中途半端な予想をしたところで、収支がボロボロになるのは目に見えています。せっかく縁があって『競馬の教科書』を手にとってくださったと思っているので、芝に限らずオープンクラスの予想だけしっかりやって、それで馬券を買えばコンスタントに利益を出せるところまではいけると思っているので。そこまでやるやらないは本人の自由なんですけど、ちゃんと予想ができていないのに馬券を買ったところで、ジリ貧になるのは目に見えているじゃないですか？

予想屋マスター

そういうことか。理解しました。

第2章 働き方改革 -不要を捨てる-

メディアの情報

予想屋マスター

競馬系メディアから、色々な情報が出ていますが、あれってどう思いますか？

玉嶋亮

言葉を選ばずに言うと、役に立たないです。やっぱり、付度とか、パワーバランスとか、色々ありますから。

予想屋マスター

騎手も調教師も、やっぱり馬主がいるからそっちに向いているところもあって、自分の本音を喋れないっていうのが原因の一つだと思うんですけど、僕はもうちょっと違うと思って。彼らがそもそも競馬の本質をわかっていないんじゃないか？って。

玉嶋亮

そうなんですか？

予想屋マスター

彼らは予想を生業としている僕らと違う。騎手は馬に乗るプロだし、調教師は馬の体調を整えるプロだと思うんですよ。騎手が負けた理由を、「休み明けで仕上がりに途上だった」とコメントしていても、僕から見ると、そこが理由ではなくて、トラックバイアスが内側有利で外回った分で負けたよねとなるわけですよ。そもそも、関係者は競馬を理解していないから、何でその馬が走ったかも走らなかったかも論理的に分かっていないんです。以前に競馬場の馬主席で、ある有力な馬主と調教師が話をしているのを聞いていてね。馬主が『走らなかったですね』というと、調教師が『夏場だから馬の気分向かなかったのかな。女心と秋の色』みたいな会話をしている。

玉嶋亮

これについては持論があって。調教師にとって、管理している馬って自分が所有していないじゃないですか？あくまでも馬主さんが所有しているなのであって。だから、どうしてもオブラートに包んだ言い方をしないとイケなくて。例えば、塾の先生（調教師）が、生徒の保護者（馬主）を捕まえて、「この子の頭じゃ、今の志望校無理でしょ」となかなかストレートに言わないじゃないですか？ほとんどの場合はオブラートに包んで、「この子には、この学校が合っている」くらいにしか言えないはずで。お客様だから。競馬の場合でも同じで、余程の信頼関係ができていないと、やっぱり忖度しないとイケない場面が多いと思うんですよ。お客様だから。こういう背景があるから、やっぱり「スプリントが最も低レベルなカテゴリー」と言えない人がほとんどだと思うんです。だから、競馬ファンにはあまり認知されていない現実があると思います。中距離で通用しない馬に対して、「この馬はスプリントに適性がありそうです」と言えば、誰も傷付きませんから。長くなっちゃいましたけど、関係者のコメントの真意を理解しようと思うと、背景にある人間関係やパワーバランスまで考えないとイケないから。。。それをするくらいなら、普通に『能力比較』『トラックバイアス』を分析する方が、恣意的な判断を入れなくて済むじゃないですか？特に、マスコミ向けのコメントなんて、大人なら打算的にする人がほとんどじゃないですか？

予想屋マスター

確かにそうかも。

玉嶋亮

例えば、それ以外にも、馬主さんから逃げろって言われたら「いやいや、無理っしょw この馬じゃw」とは、なかなか言えないじゃないですか。騎手にしたって、陣営にしたって。この本の中でも書いていますが、ファストフォース陣営が、『競馬の教科書』で書いた通り、スプリンターズステークスで逃げたいって言うていたんですよ。でも、モズスーパーフレアとかビアンフェのテンが速すぎて無理なんですよ。無理だけど、多分逃げろって言われていたんだと思うんですけど。「逃げるために、全精力を注ぎます」みたいな。そういうのって、すごく多いなと思って。あと、それと同じように、マスターの言う通りで、自分が管理している馬のことはよく知っていても、他の厩舎で管理されている馬がどの程度のレベルで、自厩舎の馬と比べてどうなのか？については、彼らにとって分析するのが仕事じゃないから、理解できていないというの、あると思います。

予想屋マスター

二走ボケとかも同じで、解説者が自分たちで敗因を解釈できないから都合よく作った言葉なんですよ。関係

者も含めて。競馬の関係者って、競馬ファンが思っているよりも競馬を分かっていなくて、馬が負けた理由を全く分かっていないですよ。

玉嶋亮

彼らも大人ですから、みんなが傷付かないように忖度して、言葉を選びながら喋っているんだなって思います。特に負けてしまった時がそうですが、なかなか本音は言えないですよ。騎手にしたって、仮に仕上がっていなかったとしても、「今日は仕上がってなかった」なんて、言える訳がないじゃないですか？

予想屋マスター

仕上がりに関してはそうね。

玉嶋亮

厳しいですよ。

予想屋マスター

僕は平場から予想しているので分かりますけど、昔と違って今の時代、体調が悪い馬はなかなかレースを使わないんですよ。JRAの出走の仕組みを見れば、体調の悪い馬を使わない理由がわかります。例えば未勝利戦。5着を外すと、出走間隔が開いた順にしかレースに出られないので、次のレースに出るまでに最低でも3カ月は休ませないといけなくなる。つまり、中途半端な状態でレースを使うほうが次のレースを使えなくなるので、体調が悪い馬は使わないのが当然なんですよ。G1にしても、ステップレースを使わずに直行というパターンが増えていて、いかに無駄なレースを使わないかという時代に、体調が悪い馬を無理やり使ってまで、馬を壊すようなことをするわけがない。

玉嶋亮

そうなんですか？

予想屋マスター

僕は関係者が表向きの発言しているのはわかるけど、それ以上に競馬ファンが思っている以上に関係者は競馬が分かっていないよっていうことを強調したいです。あと、取材する側も取材される側の気分を損ねたくないから、悪くは書けないからね。なかなか世の中で言われている情報って正しくないよねってことですね。

玉嶋亮 その通りだと思います。

騎手

予想屋マスター

3つ目が騎手リーディング。川田騎手は絶好調ですけど。

玉嶋亮

川田騎手。上手いですよね、本当。一方で、ほとんどのシーンで人気を背負っちゃうので、『競馬の教科書』でまとめた表にもある通りで。川田騎手の複勝回収率は87%でした。これ、データをまとめた時に思ったんですが、いや、これはヤベーなと思います（良い意味で）。あと、いわゆる『勝負気配』の時に川田騎手を手配することが多いのも否定しませんし、その通りだと思います。一方で、そうじゃない時があります。理由は

分かりませんが、『先約』『シガラミ』『営業』。。やっぱり仕事ですから、色々事情はあると思いますが、「川田騎手が乗るから、何でもかんでも勝負気配か？」って言うと、そうじゃない時も普通にあります。じゃあ、どうするの？ということですが、結局、騎手欄は見ないで馬を見ましょうね、というハナシしかないんですよ。それをすっ飛ばして、「先行意識の高い川田騎手」「馬群を捌くが上手い川田騎手」って、論理が飛躍しすぎなんですよ。

予想屋マスター

その通りですね。それにしても、2022年の連対率が44%。多分過去にないんじゃないですか。川田騎手はすごいよね。

玉嶋亮

それもそうですけど、複勝回収率で87%。これはすごいですよ。

予想屋マスター

川田騎手は僕が競馬を見始めてからの騎手の中でも今一番乗れている感じ。ピカイチです。

玉嶋亮

ちょっと脱線しちゃいますけど、多分、関係者はみんな乗せたいと思うんでしょうね。彼って、どこまでも「僕は仕上げてもらった馬に乗っているだけ」と黒子に徹するじゃないですか？これだけの実績を残している騎手なのに、謙虚ですよ。人間性も含めて、本当に凄い。ちょっと脱線したので、本題に戻しましょうか？予想で騎手は見ますか？

予想屋マスター

僕は予想する時にほとんど騎手を見てないですよ。前にもお話をした通りで、最後に味付けする時にどうやって本命をどっちにしようかなって悩む場合とか、もうちょっと言うと、どっちをヒモに入れようかなとかという時ね。福永や横山とか岩田とかラチ沿いにこだわるジョッキーとか、あとはどちらかという馬の気分を損ねないように外目に出すジョッキーとか。そういう時にトラックバイアスを含めてこのジョッキーだと内を突きそうだな、とか展開を想定する時に考慮するくらいで、騎乗が上手いから上位にしようっていう発想はないですね。

玉嶋亮

そうですね。私もまったく同じです。よく「戸崎騎手ですけど、大丈夫ですか？」って質問をもらうんですけど、私の立場で言わせていただくと、「いや、そこじゃなくて、馬を見て。。。」というハナシでしかありません。大体、戸崎騎手は普通に上手いし。2023年のオークス終了時点でも、重賞は中山金杯（ラージルフ）、ダービー卿チャレンジトロフィー（インダストリア）、ヴィクトリアマイル（ソングライン）で3勝を挙げています。いずれも好騎乗でした。

予想屋マスター

リーディング下位のジョッキーでも、そんなに下手には乗ってないですよ。競馬学校を卒業して、レースでもちゃんと乗っているからね。リーディング上位のジョッキーが違うのは、ミスる確率がちょっと少ないくらいかな。イメージとして。

玉嶋亮

だから、リーディング下位の騎手はヘマをする確率は高いんですけど、それ以上に圏内に飛び込んだ時の配当バンと跳ね上がるので。

予想屋マスター

そうだよね。

玉嶋亮

あと、結構みんな勘違いしているのが、追える追えないのハナシ。『豪腕』って、確かに居るんですけど、芝オープンで騎手の仕事って、直線まで如何に脚を温存するか？ですからね。このクラスって、地方競馬の馬とは違うから、道中でバシバシムチを打って「走れオラオラー！」ってほとんどないじゃないですか？強い馬ほど、ほとんどの場合はスピードがあって且つ気性もキツイから、如何にして暴走させないように抑えるか？が騎手の仕事です。

予想屋マスター

競馬の原理原則として、どの騎手を買っても期待値はほぼ 75%~80%に収束しますよね。そういう目線で見ると、去年に関しては川田騎手を除けば、ほぼ期待値通り。一方で的中率を考えると、上手い騎手を買った方が当たる確率は多少高くなるかもしれないけど、馬券の回収率をこだわる目線で見ると、騎手はそこまで気にしなくていいねって感じです。

玉嶋亮

あと、騎手に執拗にこだわっちゃうと、ガツンと回収して跳ねる馬券が取れないですからね。

血統

予想屋マスター

次は血統ですね。

玉嶋亮

血統については、もう何にも言えません。

予想屋マスター

僕は一つだけあって、もう昔から、『血統好きの馬券ベタ』っていう格言があって、競馬の馬の血統って、全てが人間でいうと、超一流なんです。だってお父さん全員が G1 馬なんだから、プロ野球選手に例えたとお父さんが、イチローなのか？松井秀喜なのか？清原和博なのか？の違いくらい。

玉嶋亮

清原さんと言えば、お子さんが慶應高校と慶應義塾大学の野球部で活躍されていますよね？やっぱり、すごい DNA だなと思いました。ごめんなさい、脱線ですね。続けてください。

予想屋マスター

あと、初芝とか初ダートとか、初物条件の時に多少参考にするってのは同意できるけどね。ただ、それもみんな分かっているから売れるし、前走が芝の 2000m で、今回は、芝の 2400m みたいに、多少条件が変わったところで馬が激変するわけない。過去のレース分析をきちんとできていれば、血統とかに頼らなくていいよね

って話をしているだけ。血統が全く関係ないと言っている訳じゃないんだけど、血統に頼らずに予想はできるよねって。だから僕は血統を全く見ないって言っているんですけど、実際見なくていいよね。

玉嶋亮

その通りだと思います。

持ち時計

予想屋マスター

次は持ち時計。これはどうですか。

玉嶋亮

持ち時計は本当に参考でしかないですよ。トロワゼトワルがマイルで世界記録ですね。あとテイエムスパードが世界のスプリンターかと言われても、それも違うし。

予想屋マスター

やっぱり時計って競馬ファンにとってもものすごく分かりやすい指標なのでありがたいけど、テイエムスパードの記録が出た時って、未勝利でも下手すると重賞級の時計が出ているんですよ。

玉嶋亮

はいはい。

予想屋マスター

時計が速い日は他のレースも時計が出ているわけで、その補正をするって意味ではスピード指数はアグリーなんだけど、スピード指数も結局時計しか見てないねって話になっちゃうんだよね。競馬ファンの予想で理解できないのは、例えば、高速馬場で時計が出ている日ってなると急に、全出走馬の持ち時計比較が始まるわけですよ。持ち時計がいい馬って、時計が出ている馬場で走ったことあるだけのことが多い。つまり、時計がいい日に走ってさえいれば、持ち時計速いよねと。一方で、時計が速い馬場で走ったことがなければ、その馬は持ち時計を持ってないよねって話でしかない。やっぱりちゃんとした能力比較ができないと、持ち時計みたいなワンファクターの予想に頼りやすいよねとは思いますが。

玉嶋亮

持ち時計と高速馬場について、私は持論があって。高速馬場で逃げ切る馬って総じて強くないですよ？

予想屋マスター

そうですね。

玉嶋亮

一方で、内前有利のトラックバイアスかつ高速馬場で、ドンと差してくる馬は、強いパターンが多いと思いますが、それについてはどうですか？

予想屋マスター

高速馬場って、何が起きるかという、同じラップで走っていても、馬にとってはペースが速くないんです

よ。ラップ比較も難しく、例えばそれこそトロワゼトワルが逃げ切った年の馬場だったら、道中の通過ラップも速いんですよ。つまり、最初の3ハロン比較でも1000m通過ラップでも他のレースと比較すると数字上は速く見えるよねっていう話。だからこそ、時計だけじゃなくて、ラップの数字だけを単純に比較しても意味がないから予想に使うのは非常に難しい。僕は、3場開催の場合は、1日36レースすべての時計とラップを見ているから、この日のこのコースのこの馬場状態でこのラップに価値があるかないかが分かるけど、ほぼ全ての競馬ファンには使いこなせないんじゃないかな？コンピュータでも使いこなせないくらいだと思います。

玉嶋亮

その通りで、いつも思っているのは、高速馬場の内前有利なトラックバイアスの時に、逃げ切った馬は強くないと評価することがほとんどです。

予想屋マスター

そうですね。後から出てくる軽いレースみたいな。

玉嶋亮

そうです。仰る通りです。

予想屋マスター

やっぱり軽い馬場の時は、前が残りやすい。それは当然なんでね。だからやっぱり時計が速いってことは同じペースでもバテない。だから、前が残りやすいんですよね。

玉嶋亮

逆に、内前有利のトラックバイアスで、後方から差してきているような馬は強いです。毎日杯のシャフリヤールとかそうですね。あと、桜花賞と阪神JFを制したリバティア일랜드。この時も内前有利のトラックバイアスでした。

予想屋マスター

あれは凄かったね。新馬戦の31秒台。

玉嶋亮

ああいう競馬で勝つのは、やっぱり強いです。

予想屋マスター

高速馬場って、やっぱり時計が速いだけあって、外を回しちゃうとダメなんですよ。逆に、差してきても道中内を突いてきている馬もいるんですよ。そこの微妙な判断は難しい。

玉嶋亮

あれ何でしたっけ？ディープモンスターの関門橋ステークス？これは本格化したとあって言われていましたが、私はそうは思いませんでした。直線では、内に潜り込んでズドンでしたから。強いには強かったですが、それはオープン特別でのハナシで。重賞戦線だと、まだ通用するかどうか？は分かりません。

予想屋マスター

8 枠からうまく内に潜り込めたからね。

玉嶋亮

ビジュアル的に派手でも、あれは強くない勝ち方なんですよね。

馬体重

予想屋マスター

じゃあ、次は馬体重ですね。これはどうですか？

玉嶋亮

見ないですね。調教後馬体重にしても、レース直前の馬体重にしても。。見たところで、増減の原因を追及できませんから。見たところで、「だから何？」という結論にしかありません。追い切りやパドックをしっかり分析できるなら有益な情報なのでしょうが、そこまでできないですから。落としどころというか。

予想屋マスター

僕も見ません。僕の場合は前日に予想提供しているという理由もあるけど。馬が500キロあると考えると人間でいう10分の1。つまり馬の10キロぐらいの増加って人間でいう1キロ位。1キロ位なら人間でも測った時間や便の状況でそれくらい変わるので、関係ないよね。みんなプラスだマイナスだと大騒ぎするんだけど、その馬のベストが何キロなのか？そもそも分からないで言っているよね。

玉嶋亮

そうなんですよ。リスグラシューとかグランアレグリアとかも、馬体重を増やしながら強くなったクチですかね？一方で、サリオスなんかは、馬体重がいきなり増えましたけど、しばらくは低迷していました。キャリア末期で、安田記念3着や、毎日王冠勝ちがありますけど。馬体が急に大きくなっても、強くなるとは限りません。鈴木さんが見れば分かるのでしょくけど。。

予想屋マスター

だから、そういう目線で見ると、素人が見ても、パドックはまったく役に立たないと思っています。結局パドックを見ている時も競馬ファンは馬を診れないから、目先の数字に踊らされて、「プラス10キロだから太い」「マイナス10キロだから絞れた」と分かった風のことを言いますが、それが結果に結びついたかを全く分析していない。実際のところは、体重だけで馬のピークがわからないし、ベストの体重がいくつかも分かってないよねってところですね。

玉嶋亮

その通りです。カラテって、急に強くなったじゃないですか。3勝クラスの時かな（若潮ステークス）。その頃前後に、いきなり馬体重が増えたんですよね。あの時には3勝クラスの馬がもう重賞勝てるぐらいのレベルだったんですよ。若潮ステークスを見て、「こんなに強い馬が、何故下級条件で燻っていたのだろうか？」と気になって調べてみたのですが、馬体重の変遷を見ていくと、その時にいきなドンと増えたので、これが本格化ってこと？とは思いました。若潮ステークスで沈めたウインカーネリアンも、当時は今ほど強くなかったんですけど、それにしても強い勝ち方だったので、鮮明に覚えています。

予想屋マスター

その情報を知っても、普段の予想としてあんまり生かしようがないですね。

玉嶋亮

そうなんですよ。「馬体重」云々を言い始めちゃうと、結局さっきの話と一緒に、色んなファクターに発散してっちゃうから。分からないから、ここはもう捨てよう。今度、鈴木さんにも聞いてみようかな？

予想屋マスター

宝塚記念で外国馬ワザラーが 30 キロ減でも 2 着にきたり、去年の安田記念でもサリオスがプラス 10 キロで好走したりと、大幅な馬体の増減で人気の落ちた馬が好走して波乱になるということも結構ある。だから、逆に人気は急落するようであれば、買いだったりすることもあるよね。いずれにせよ、馬体重はあんまり考えなくていいねっていう結論で間違いないと思います。

玉嶋亮

ここで私言いたいのは、能力比較とトラックバイアスを見て予想が終わっているじゃないですか？そこに馬体重出てきたら、それって判断材料になるの？というハナシでしかありません。だから、予想が濁ってしまうというか。結局、見ない方が良いでしょう。

予想屋マスター

僕も全く見ていません。よく Twitter で、「マスターの本命馬がマイナス 20 キロだけど大丈夫？」って質問くるけど、大丈夫だからそのまま買ってくださいとしか言いようがない笑。

常識・格言

予想屋マスター

じゃあ次行きましょう。常識・格言です。これも全く役立たないですね。

玉嶋亮

これもさっきのデータの話と同じですね。

予想屋マスター

夏は牝馬とか、長距離や G1 は騎手で買えとか。叩き二走目は買えとか。じゃあ夏は牝馬って言うなら、朝から晩まで牝馬だけを買ったとしても回収率が上がるわけでもない。長距離、G1 は騎手で買えというのは、既に売れて人気になっているし。もうちょっと言うと G1 に騎乗する騎手はみんな優秀だし。

玉嶋亮

私が思っているのは、常識・格言は説明できるんですけど、物知り博士になっても意味がありません。もうちょっと言うと。。よく言われるのが、雨上がりって内が伸びやすいっていうじゃないですか。

予想屋マスター

よく「何故そうなるの？」って聞かれるけど、学者じゃないし、馬場造園家の作業を朝から晩まで見ているわけじゃないから、それは分らんよ笑、って感じ。

玉嶋亮

我々は予想屋だから、結局実務屋なんですよね。研究者ではないから、そんな学者が知るような知識は不要なんですよ。「こういう時は、そういうもんだ」ということだけ押さえておけば十分です。

予想屋マスター

雨上がりだろうが、乾いていく過程だろうが、やはり外が伸びる時もあったりするわけですよ。結果が全てだから、冷静に目の前で起きていることから、その日のトラックバイアスを分析しましょうねで終わっていいはずなのに、今日はなんで雨なのに外も伸びるんですかねと言われても、「知らんがな」というハナシでしかない。

玉嶋亮

どっちが伸びているかというそこまですべて終わりでいいんですよね。時期によって、野芝オンリーの時もあるれば、オーバーシードの時もある訳で。「内が有利か?」「外が有利か?」「どこを通った馬が好走したか?」事実関係だけを把握するので十分です。そこから先に進もうとすると、まあ、間違えます。

予想屋マスター

競馬ファンは、昔から叩き二走目を買えとか言うけど、不思議なのは、逆に二走ボケという言葉もあるんですよ。どっちなのって?結局さっきの話じゃないけど、みんな人間って都合のいい事象を都合のいいようにしか解釈しないから、自分の馬が走れなかった時には二走ボケって言って、買いたい馬がいる時には叩き二走目って言っているんですよ。

玉嶋亮

ちょっと話題を変えます。最近、質問をいただいたんですけど、距離短縮があるじゃないですか?稼げる定石の1600mから1200mへの距離短縮、あるいは2000mから1600mへの距離短縮。それって、1発目が狙い目なんですよね。

予想屋マスター

そうです。

玉嶋亮

1発目って、様子見とか言って、みんな買ったがらないんですよ。分からないからどんとオッズが上がるので、そこをドンと狙いに行かないと。結局競馬ファンが好きなのはこれも2走目だから馬がその条件に慣れているっていう論理。慣れてきたから買うって言って、1走目で走らなかった馬が慣れて急に走るなんてことは少ないのに、オッズが急落しちゃうんで、期待値も下がりますよね。芝からダート替わりも、同じでしょう?

根幹距離・非根幹距離

予想屋マスター

次にいきましょう。これも好きな人いるね。根幹距離って、最初なんのことが分からなかったよ。あと非根幹距離も。

玉嶋亮

400で割り切れる数字が根幹距離で、そうじゃない距離が非根幹距離。

予想屋マスター

だから何？ってハナシでしかない。

玉嶋亮

非根幹距離の G1 レースで、宝塚記念、有馬記念、エリザベス女王杯、菊花賞くらいしかないんですよね。結局、根幹距離でレベルの高いレースが施行されるから、ということだけなんですよ。G1 レースのほとんどが根幹距離で施行されるから、根幹距離のレースレベルの方が高くて、かつ質が重くなりがちなのは当然です。

予想屋マスター

G1 レースのほとんどが根幹距離で行われているから、根幹距離のレースって、レベル高いよねって話をだよ。Twitter とかを見て、よく分からないけど、根幹距離はレベルが高いレースだとか、根幹距離はディープ産駒が走るとか、逆に非根幹距離は何かちょっとマイナーな血統が勝つみたいな話をしているのは聞いたけど。単純に賞金が高いレースだから、そこに強い馬が集まってきているだけだと思うんだけど。

玉嶋亮

例えば、ダービーとジャパンカップって 2400m でやるじゃないですか。目黒記念とアルゼンチン共和国杯って 2500m ですよ。それが逆になったら多分逆のことが起きるんですよ。たかだか 100m しか変わらないのに、そんなにレースの質が変わる訳がないじゃないですか？いつも言っているんですけど、100m しか変わらないんだから同じだと。ダービー、ジャパンカップと目黒記念、アルゼンチン共和国杯だと、メンバーレベルが違いすぎるから、そういうふうに見えるだけであってって話はいつもしているつもりです。でも、なかなか浸透しません。

予想屋マスター

根幹距離かどうかは一切関係なく普通に 1400m や 1800m だろうが、普通に過去の成績を見て普通に能力分析とトラックバイアスを分析すればいいだけだよ。

玉嶋亮

そうです。例えば、阪神カップや中山記念が G1 で賞金が高ければ、もっと多頭数で強いメンバーが集まり重いレースになって、前が垂れて差が決まる重いレースになるはずですよ。

長距離輸送

予想屋マスター

次は輸送。皆さん、輸送好きですね。

玉嶋亮

大阪杯がタイムリーなネタですね。この前知ったんですけど、阪神競馬場の関東馬専用の厩舎の方が公道に近くて、馬にとってはストレスフルなんですって。

予想屋マスター

どういうこと？

玉嶋亮

関東馬の厩舎と関西馬の厩舎では、関東馬の厩舎の方が公道に近いので、車の騒音が激しいらしいです。だから、関東馬が不利だから負けちゃうみたい。空前絶後の阪神三冠（菊花賞、天皇賞春、宝塚記念）を達成しているタイトルホルダーは、関東馬なんですけどね笑。

予想屋マスター

よく分からないけど、輸送すると体重減るとか？移動は疲れるからストレスかかるのは同意できるけど。じゃあ、大阪杯で関東馬が勝たないよって言ったとしても、そもそも関東馬が、ここ何年もレベルが低くて、圧倒的に関西馬がG1で好成績をおさめている。一方で、輸送の影響を加味するんだったら、関東の重賞は関東馬が勝たなきゃいけない話になってしまうよね？その議論を度外視して、関西のレースに行ったら、関東馬が輸送の影響で最近勝っていないから今年も関東馬は来ないよねみたいな飛躍した話になっちゃうんですね。それも統計的には何の参考にもならないくらいのサンプル数のレース結果を見ただけであたかもすごいデータかのようにいうのがよく分からない。

玉嶋亮

ですから、そこの右のページにあるアストンタマチャン。（競馬の教科書より）

予想屋マスター

本当だ笑。

玉嶋亮

新馬戦東京圧勝（関東）。東スポ東京圧勝（関東）、からの朝日杯FS（関西）で負けちゃった。

予想屋マスター

関西が不得意って話にしたがる人がいるけどレースのレベルが違うだろって感じだけど。

玉嶋亮

レベルが違うので。人間の世界だと例えば、この前までセンバツ高校野球やっていた。

予想屋マスター

春の甲子園ね。

玉嶋亮

これって、例えば、東日本の高校が地方大会で圧倒してきました。でも、その選手たちが関西大阪のハイレベルな全国大会に行って惨敗したからで、いや、それ輸送じゃなくて単純に大会のレベルが全然違うからでしょう？ってね。競馬でも、オープンクラスなら輸送は当たり前がありますが、下級条件で輸送って、ほとんどないんですよ。

予想屋マスター

ほとんどないですね。今の時代って出走順も基本的には地元馬を優先するようになっているので。帯同馬をたまに連れていくこともあるけど、基本的には関東馬は関東ブロックで出ることが多いですね。

玉嶋亮

ですよ。連れて行く意味がないというか。よっぽど何か期待されている馬が東京でデビューするとか。あるいは、ダービーを狙っている馬が東スポ杯や共同通信杯で東京コースを試走させてみたい、なら分かるんですけどね。まあ、レアケースですから、これは追いかける必要性は感じません。

予想屋マスター

僕は当たり前の話をしていて、道悪適性、距離適性、コース適性とかもそうだけど、多くの競馬ファンが見ようとするのは、レース内容ではなくて、過去の1着、2着、3着、着外回数。例えば、今週の2023年大坂杯を例にとると、阪神のコース適性でジャックドールが阪神の芝1着1回、2着1回、4着1回、着外1回という成績を見て、阪神が得意・不得意という話を始めるんだけど、そこじゃないんですよ。だって結局1着1回が未勝利戦だとしたら、G1の予想の参考になる訳がないよねと。逆に着外の4着がG1での強い内容だったら価値があるわけで。結局、コース適性をキチンと把握するためには、過去の全レースのレース回顧をキチンとして能力分析をするしかないんだけど、多くの競馬ファンは新聞に載っている記事を読むとか、楽な調べ方しかしないんですよ。そこは、手間を掛けてレース映像を見て、自分の眼と判断基準で判断しないと。

玉嶋亮

仰る通りです。

予想屋マスター

もし、関西に長距離輸送して、この馬が本来のパフォーマンス全く発揮できませんよねというのが2、3回続いたら、それはめちゃめちゃアグリーなのよ。ただ、G1に出られるレベルの馬なら最大限のパフォーマンスが発揮できなくても、未勝利だったら勝てるわけですよ。やっと2章終わった。ちょっとやりすぎたかな？

玉嶋亮

全然良いです笑。第1章、第2章って、普遍的な大事なトピックで、この大前提を理解していただかないと、良い予想ができませんから、特に補足したかったの。

第3章 合理化の徹底 – 中核を決める –

適正価格を見極める

予想屋マスター

先程話したように、適正価格を高い精度で把握するためには、「このレースは期待値が高そう」「買いたい馬がいる」という先入観を持って予想する、馬券を買うのではなくて、基本中の基本である全頭的能力比較をしっかりやってから予想が始まるって話ですね。

玉嶋亮

その通りです。それをやらないと、表題にある『適正価格を見極める』なんて、できる訳ないですよ。よくある「前走不利を受けた馬だから、次走で是非狙いたい」って、そもそも、その次走のメンバーで通用するの？そのメンバーの中で序列は？というハナシなんです。だから、その序列を週末までに作っておくのが、マスターが言う通り、基本中の基本。これって、Paddock LabのMTPにも通じるハナシでしょう？大事なハナシだから繰り返しますが、全頭的能力比較をしないと、『適正価格』『期待値』なんて、分かる訳ないですよ。そこまでやっておいて、フタを開けてみたら、「人気順と自分の予想に乖離がありました」という時に、そこで初めて期待値の高いレースかもしれないことが分かってくるんですよ。

予想屋マスター

徹底的に、真剣に、全ての自分の対象レースを予想してから、競馬の儲けは始まるんですよ。でも、逆に予想を真剣にすればするほど、せっかく予想したから馬券を買いたくなっちゃうんですよ。

玉嶋亮

ちょっとミスリードしているかもしれないので、この場を借りてお話をしておきたいんですけども。例えば、今週は大阪杯のことはメルマガに書いているし、土曜日のダービー卿チャレンジトロフィーについては、一言も Twitter で書いてないです。

予想屋マスター

確かに書いてないね。

玉嶋亮

中途半端なことを私も書きたくないので、今週の Twitter は大阪杯だけ。一方で、裏開催と言えるオープンクラスは、Twitter に書かずとも、自分で全部予想しているんですね。期待値が高そうだから予想しているのではなくて、オープンクラスを全部予想して、その中でたまたまダービー卿チャレンジトロフィーがおかしなオッズだったので、そこにいったということです（◎ジャスティンカフェ複勝チャレンジ2着的中）。

予想屋マスター

ハンデ戦とかって、期待値が高そうってみんな思うのよ。一生懸命予想したうえで、どんな馬券を買えば期待値が高いかを決めなきゃいけないって、そんなに簡単じゃないんだよね。もっと言うと、一生懸命予想しても、馬券を買わないという決断までもできるかどうかってこと。これらすべてを含めて適正価格ですね。

玉嶋亮

最近、『競馬の教科書』読者の方や、私の Twitter を見てくださっている方々が、普通に「見送り」をしてくれるのが、地味に嬉しいんですよ。やっぱりこれって、競馬で勝つために最も大事なことだと思っているので。でも、嫌じゃないですか？せっかく予想したのに、当たるかも知れないレースを放棄するのは。

予想屋マスター

その通りだね。僕は滅多に他人を褒めないけど、僕の無料メルマガコラムで執筆してくださった方々を筆頭に、みんな凄いよね？回収率 100%超えるのって、簡単じゃないのに。全部読ませていただいたけど、苦しみながら成果を上げたというのが、ビシビシ伝わってきました。

玉嶋亮

そうでしょ？話を戻して、もう 1 個だけいいですか？私、いつも思っているんですけど、別定戦の方が稼ぎやすいというか、みんな荒れないと思っているので。

予想屋マスター

そうですね。

玉嶋亮

別定戦の方が、能力比較が簡単なんですよね。強い馬は本当に強いし、今年の京都記念のドウデュースとか。

あと、ハンデ戦でイレギュラーでしたけど、日経新春杯のヴェルトライゼンテでとか。この2レースは、ドウデュースとヴェルトライゼンテがアッサリ軸が決まりで、その下がもうダンゴ状態だから、その中からオッズが高い馬だけ選んでおけばいいよね、というレースでした。高配当が飛び出すかは、水物でしかないのですが。逆に、オークスみたいな場合だと、リバティア일랜드が軸としてアッサリ決まったとしても、その下はダンゴ。この場合は、匙加減で予想がどうにでもできちゃいますから、控除率突破が難しいです。

予想屋マスター

そこは競馬ファンの心境ですよ。騎手でもいいけどハンデ戦はみんな荒れると思って何か穴を狙うから何を買っても配当が付かないケースの方が多いですよ。

玉嶋亮

そういう意味では、日経新春杯のヴェルトライゼンテは、競馬ファンが「ハンデ戦だから荒れる」がオッズに反映されたレースだったかも知れません。だから、私は夏競馬って結構手控えるんですね。難しくて。夏競馬あるあるですけど、これは荒れたなと思っても「3連単30万くらいしか付きませんでした」なんてことは、よくありますし。難しい上に当たりにくいから、どうしようもないんですよ。「夏競馬は、ほどほどに」は、『競馬の教科書』に書いていなかったかも。Twitterでは「夏競馬は手控えた方がいいよ」とよく言うんです。大体みんな見ていると、夏競馬を迎えるまで宝塚記念までそこそこの回収率なのに、夏競馬でボロボロにされても秋以降戦えなくなるみたいな。だから、夏競馬はあまりやらない方がいいと思いますね。

予想屋マスター

馬券を買わないレースを真剣に予想したくないんですよ、みんな。

玉嶋亮

それは心情的に理解できなくもない。でも、本気で勝ちたいんだったら、そこまで踏み込んでやらなきゃダメとは思います。

再現性のある予想 理論は単純化・体系化すべき

予想屋マスター

次は「再現性のある予想 理論は単純化・体系化すべき」。結局、僕らは意外と分かりやすく、『トラックバイアス』と『能力比較』を中核のファクターとして、奇をてらった予想はしていないんだよね。それをやった上で、オッズを見て買おうと。あとは、オッズが割に合わなかったら見送るっていう。これの繰返し。自分が真剣に予想したからって、基本的には25%控除されていて買えば買うほど損する訳だから、安易に参戦して馬券を買ったら負けるよねってだけ。

玉嶋亮

そうですね。

予想屋マスター

次は、よく期待値の話をする、皆さん勘違いしているのは、期待値が高い＝常に穴を狙っているみたいに思っていることですかね？基本的には、予想してたまたま人気のない馬が見つかったからラッキーなんですよ。普通に予想をして、「予想と馬券は切り離す」のが、競馬の基本。でも、ほとんどの競馬ファンって、本命党とかって穴党って言葉が一般的にあるように、みんなどちらかというと、新聞の印を前提に予想しているから、

「俺は本命党で、今日1番堅そうなのがこの馬と思うから買おう」みたいなのと、穴党って言われている人は、人気のない馬のなかから何か自分の無理矢理の理屈に合う馬を見つけて、「この馬が人気ないのに走りそう」とこじつけて穴党と言っている訳ですよ。でも、それじゃあ、なかなか当たらずで、ジリ貧は目に見えています。

玉嶋亮

仰る通りです。これは、後半で出てくるマトリックス『H-H型』『L-H型』のハナシですね。

予想屋マスター

プロの予想を使って馬券を買う時も、これは冒頭に話したように、基本的にはどんなに天才の人が予想しても、ベタ買いをしたら回収率は90%を超えればいい方だと。もう1つ、その競馬でプラスにするって考えたら、やっぱり馬券の買い方がかなり重要だよと。だから結構質問も来ましたよね。予想力と買い方どっちが大事ですか？みたいな質問が結構来るけど、どっちも大事だよ。本当に両方が伴って初めてプラスになる。

玉嶋亮

そうですね。ただ、競馬は予想力を上げるのがやはり基本ですね。結構、勘違いしている方が沢山いらっしゃると思うので、この場を借りてお話をしておきたいのですが。。私って、結構テクニクというか、普通の人がやらない買い方をいっぱいしているから、「玉嶋さんは買い方が上手いから儲かっている」みたいに言われることが結構多いのですが、そうではなくて。普通に予想して、「その中で買える買い目は何か？」ありとあらゆる券種のオッズをチェックして、その中から買えるオッズの買い目を拾って。オーソドックスじゃない買い目や買い方が結構あるので。だからそこはやっぱり予想力が基本で、予想が上手くなると、上手い買い方ができるようになってくるんです。

予想屋マスター

そうですね。よく分かります。

玉嶋亮

それが分からない限り、買い方を間違えたとか？いつも言うことなのですが、ゲートが開く前に期待値って確定しているんですよ。だから、「買い方を間違えた」なんて、チャンチャラおかしいんですよ。そんなのは結果論でしかなくて。ゲートが開く前に、「この買い目は、期待値が高いんだ」。以上です。

予想屋マスター

僕の場合はどちらかというと、予想力に関しては誰にも負けていないつもりだけど、買い方という話でいうと、僕よりも上手いお客さんが沢山います。つまり、うちの場合には、お客さん自身は予想を放棄していて、僕の日本一当たる予想でどう買ったら、どう儲かるかってことだけを研究しているお客さんが結構いるんです。

玉嶋亮

プロは予想材料を提供して、お客さんはそれを元にどうやったら儲かるかを研究しているということですね。凄く分かります。

予想屋マスター

どうやったら一番儲かるのか、利益の最大効率を考えて買い方を考えるお客さんは結構いますね。予想力は平場も含めたら僕には勝てないから。だったら予想を外注したほうが、話が早いねってお客さんばかりですね。

玉嶋亮

分かります。Paddock Lab の鈴木さんとも、このことについては話したことはあります。僭越ながら、私は馬券の買い方では鈴木さんとマスターよりも上手いと思うんですよ。何故かという、予想力が鈴木さんとマスターより劣っているから、馬券の買い方で予想力の差をリカバリーしないと、同等以上のレベルで戦えないんです。追い詰められているから、『単勝多点』『複勝チャレンジ』『馬単絞り込み型フォーメーション』。。プロの予想力と数の暴力（レース数）があれば、これらは必要ありませんから。プロの予想は弾数があって、収束の心配もありませんから、オーソドックスな馬連ながし、三連複ながしで十分です。自分が鈴木さんやマスターより格下であることは呑み込んだ上で。。でも、芝オープンクラスの予想をする時は、私は予想屋なんです。生意気を言いますが、マスターにだって負けたくなくて、自分がトップを獲りたいと、いつも思っています。

予想屋マスター

なるほど。僕がすごいと思うのは次から次へと買い方を考えることだね。メチャメチャ目から鱗というか、複勝チャレンジもそうだし、僕には思い付かない。まあ、それが正しいかどうかの実証は、数が少ないからね。あれが1,000レースとか検証できれば面白いよね。玉嶋さんがこの買い方をしているのは、予想レースが少ないから、早く回収率を収束させるためには複勝だよってことだけど、僕が思ったのはずっと言うように、他人と違う馬券を買わないと儲からないという前提で安い本命を買う場合には、みんなが買わない簡単な馬券ほど期待値が高そうということ。

玉嶋亮

それは間違いないです。実は、複勝チャレンジについては、鈴木さんから指摘されました。「複勝チャレンジじゃなくて、単勝でも良いんじゃない？」と。それについては、ごもっともなんですけど、そもそも複勝チャレンジにいける案件って、年に十数回しかないから、単勝に比べて不的中だと、まあまあ痛いんですよ。複勝だと、単勝よりも期待値的には多少劣るのは、自分でも分かっているんです。でも、複勝だとあつという間に収束しますから。収束の問題を考えたら、複勝チャレンジ一択です。

予想屋マスター

次は、穴を狙う場合にいきましょうか？多くの競馬ファンが穴馬を買うときは、それでも配当がつくからと簡単な馬券に逃げるので、皆が買わない三連単などの難しい馬券が正しいんですよ。逆に人気サイドを買う人って、倍率低いからと言って、難しい三連単にチャレンジする人が多いんですよ。また、人気サイドの馬の場合、複勝なんかオッズが付かないからと言って、買う人が少ないので、逆に期待値が高まるという。

玉嶋亮

私の目線でそれについて言及すると、人気背負っている馬の単勝ってあんまり買わなくて。最近、単勝で上位人気をパーッと入れて買うことはあるんですけど（単勝チャレンジ：2022年マイルチャンピオンシップ、2023年中山金杯、2023年シルクロードステークス、2023年小倉大賞典他）。あれは、最大出力が高い馬で包囲網をかければ、多少の不確定要素があっても、単勝を狙った馬のどれかが勝つやろと。

予想屋マスター

全然脱線しちゃうんだけど、単勝で多点買いしてるじゃないですか。それと複勝の1点のどっちがいいだろう？

玉嶋亮

それはケースバイケースです。でも、検証すれば、結構面白いかも。

予想屋マスター

面白いですよ？

玉嶋亮

序列によりますよね。1頭抜けている時は、2023年ダービー卿チャレンジトロフィーのジャスティンカフェみたいに複勝。ただ、最近思うのが、『単勝チャレンジ』『馬連チャレンジ』の場合は、多点買いなので、どれかが不利や出遅れで詰んでも、『あそび』があって不確定要素が少ないので、そこに優位性があるとは思いますが。

予想屋マスター

これは難しいよ。僕らが議論しても、誰も真似できない。

玉嶋亮

単勝の場合はそうで、別の券種の話もしましょうか？2021年の天皇賞秋で、グランアレグリアとコントロールとエフフォーリア。この時は馬連ボックスの『馬連チャレンジ』だったんですよね。その3頭のうち1頭が飛んでも、2頭はワンツー決めるやろっていう。そこは3連複ではないんですよ。3連複いっちゃうと1頭飛んだら詰んでしまうので。この時って、MTP換算だと、この3頭は80近くあったはずなんです。それ以外は、高くても70ちょっと。それらの馬が、この3頭に割り込んで2着以上に食い込むのって、相当ハードルが高いんですよ。ちなみに言うと、この時はこの3頭の馬連ボックスで合成1.3倍付いていました。これで回収率100%は十分に突破できる見通しはありました。

予想屋マスター

なるほど。玉嶋さんが新しい馬券の買い方を次から次と考えるから面白すぎるやろと。

玉嶋亮

『競馬の教科書』でも言っているマトリックス『H-H型』に寄せていく時は、常に『あそび』（冗長性）を持たせています。多少予想が狂っても、当たるやろっていう。欲をかいて狭めて、不的中だと大ダメージを被りますから。それは絶対に避けた。『H-H型』は、当てるのが最優先です。

予想屋マスター

基本的には、馬券って狂う、外れるのを前提で買わないといけません。

玉嶋亮

ほとんどの競馬ファンがそうではなくて、堅い時に買い目を狭めて結構リスクな買い方をしちゃうから、そこで外れちゃうと、大ダメージを被るじゃないですか？そこはもう、基本的にミスれないぞってところを押さえたいかないといけないと思います。

予想屋マスター

でも、確かにプロとかけている時間が違うから、鈴木さんや僕よりは予想力が劣るけど、それをカバーするための馬券力をも鍛えるのが大事ということが、この本を読んで分かります。買い方を見ているだけでも、そ

れは十分に伝わります。

第4章 必勝ルーティン – 単調を繰り返す –

予想屋マスター

次は競馬との付き合い方について。玉嶋さんはどうでしょう？

玉嶋亮

付き合い方というと、私は『競馬の教科書』を書いているという背景もあり、勝って示さないとうとうもないな、というところがあるので、楽しむ競馬とはもう一切縁を切って、とにかく馬券で稼ぐことしか考えていません。私の場合、鈴木さんやマスターと違って、プロの予想屋ではないので。どちらかと言えば、本書を手にとって読んでくださっている競馬ファンの方々と近い立場だと思っています。予想しているレース数は年間約200R、馬券を買っているレースは年間約50R程度ですから、スキマ時間でも決して無理な数字ではありません。Paddock Lab、マスターの場合は、年間2,000~3,000R。私でさえも、あまりピンときません。

予想屋マスター

僕はね。もう競馬との付き合い方は、18才から競馬のプロとして予想をやっているのだから、当たり前ですが、仕事ですね。

玉嶋亮

そりゃそうだ笑。ちょっと脱線しますが、競馬から一時期離れたことがあって。

予想屋マスター

おー、意外。それは何故ですか？

玉嶋亮

競馬って、中途半端にやったところで勝てないじゃないですか？2015年ラブリーデイのあたりかな？その前後に、4,5年は離れていたんですよね。仕事を必死にやらなきゃいけない時期があって。まあ、人生の転機でした。競馬もやりたかったんですけど、中途半端にやったところで勝てないのは分かっていたし、それじゃあ、面白くもないし。競馬を好きだったからこそ、中途半端な姿勢で馬券を買う自分を許したくなかったんです。だから、その時は、スパッと競馬から離れようと思いました笑。その経験があって、「やっぱり、俺は競馬が好きだ」と再認識できたので、あれはあれで寂しかったですが、良かったかな？と思っています。

予想屋マスター

僕が思うのは、ウチのお客さんでもそうだけど、競馬って難しく、やっぱり時間もお金も使うし、パートナーの理解も得づらいんですよ。奥さんや彼女に限らずね。だからやっぱり離れる時期があっても良いんじゃないかな？と思っています。

玉嶋亮

私も結婚するタイミングで、妻からそれは言われました笑。私と違って、妻はギャンブルとは無縁の家系で、「え？賭け事？競馬？」みたいな笑。やっぱり、不安だったとは思っているので、「俺はこういうやり方でやるから、大丈夫だ。だから心配するな」という説明は何度も何度も懇々としました。時間は掛かりましたが。。

予想屋マスター

競馬は時間とお金に余裕を持ってやった方がいいよねと思うんですよ。だからこそ、競馬から離れる時は、中途半端ではなく、徹底的に離れる方がいいかと。ただ、一旦離れると、競馬が分からなくなるから、なかなか当たらなくなっちゃうんですよ。

玉嶋亮

これについては、個人の自由だからなんとも言えないところはあるんですけど。。G1だけやりたいって言う方々も沢山いらっしゃる訳ですし。「人生論」じゃないけど、「競馬って、自分にとって何ですか？」禅問答みたいな感じになっちゃいますね。私の場合は、先程言った通りで、中途半端に競馬をやる自分が許せなかったんで、離れちゃったんですけどね。それはそれで良かったかな？と思います。見なきゃ見ないで、生活には支障なかったですし笑。

予想屋マスター

じゃあ、『必勝ルーティン』の本題にいきましょうか？僕と玉嶋さんそれぞれの月曜から週末までの競馬予想における過ごし方を話しましょう。

玉嶋亮

日曜日の夕方にレースが終わってから、土日分の回顧は大体終わっちゃいますかね。芝オープンはせいぜい3,4レース程度なので。回顧って、目先のお金を生まないこともあって、やっぱり退屈ですから。できれば日曜日のうちに終わらせてしまって、引っ張っても月曜日まで。それ以上先送りにすると、自分が嫌なことだから、絶対放置する自信があります笑。回顧自体は、目先のお金を生んでくれないというか、苦痛以外の何物でもないですから。

予想屋マスター

ああ、なるほど。では次に、回顧で注目するポイントがあれば、教えてください。

玉嶋亮

基本的には、上位入線した馬を重点的にチェックしますね。何故かという、敗因っていうのもあるんですけど、そこはあまり気にしません。例えば、ヴィクトリアマイルでスタート直後にポジションを下げてしまったナミュールは不発だった感じは否めないんですけど、あれがなかったからと言って、ソングライン、ソダシ、スターズオンアースに先着できたか？って、結局憶測でしかないから、分からないんですよ。これを読んでくださっている方にも言いたいんですけど、敗因って実はそんなに大事じゃなくて、結局、最大出力ですね。MTPの考え方も、それと同じじゃないですか？回顧で見るべきポイントは、好走した馬がどこを通ったの？差し損ねたの？というところをまず見ますかね。

予想屋マスター

なるほど。

玉嶋亮

不利を受けた馬も、見るには見ますよ。ただ、不利を受けた馬から読み取れる情報は、「不発だった」というところに留めますね。ナミュールの素質が高いことは認めますが、私の中では、恵まれた東京新聞杯でウインカーネリアンを差せなかった、という位置付けです。今後、最大出力を更新して、G1級の馬を向こうに回して大活躍する可能性は秘めているとは思いますが、それはそれ。その希望的観測を予想に入れれば、キリが

ないですからね。

予想屋マスター

ナミュールみたいに素質の高い馬は、確かに見極めが難しいですね。でも、その一方で、過剰な期待を背負うことが多いですからね。もう少し掘り下げましょう。月曜日一杯までに前の週の回顧をすることですが、これはどこまで見るんですか？馬券を買ったレースなのか？馬券の購入を見送ったレースも含めて、全部なのか？

玉嶋亮

芝オープンクラス全部です。馬券を買う買わないは大した問題ではなくて、私のフィールドである芝オープンのレースは、全部見ておかないと、浦島太郎状態になってしまうので。ここまでやっておかないと、週中予想の局面へいった時に、ちゃんと分析できていないことになっていきますから、その時に困り果てるのは自明です。例えば、月曜日に Paddock Lab から出てくる虫食い MTP。あれって、見る側の人間は「うわっ」と思うはずですよ。不完全な情報って、見せられるとストレスが溜まるじゃないですか？過去に行われた芝オープンクラス全部を分析しておくということは、このクラスで虫食いが無いことを意味するんですよ。そこまでやらないと、期待値なんて出せっこないですから。虫食い情報の中で、例えば前走不利を受けた馬を「買いたい馬」と言って推したところで、そもそも通用する能力がないと、ハナシにならないですからね。

予想屋マスター

なるほど。やるべきことは当たり前でやると言うか。芝オープンクラスに在籍している馬については、その序列をデータベースとして整備するために、全てのレースを遺漏なく頭の中で整理しておくということですね？回顧はここらへんにして、次にいきましょう。予想をする時は、何を見るんですか？例えば、新聞なのか、専門誌なのか？あるいは特別な何か？玉嶋さんのファンは、そこを聞きたいと思うんですよ。

玉嶋亮

JRA-VAN だけです。この局面では、先程言った芝オープンクラスで全て回顧しておいた馬を1頭ずつ復習の意味で見えていきます。回顧した当時から時間が進めば、メンバー間の比較が変わって当然ですからね。「こういうレースだったよね」というのを、確認の意味も込めて1頭ずつ丁寧に見ていって、必要に応じて当時の回顧で得た評価を上方修正、下方修正します。それに加えて、記憶を呼び戻す作業も含まれます。人間の記憶力には限界がありますから、1頭ずつ見直していくと、回顧した当時に感じたことと若干違うことがありますので。朝日杯 FS なんて、最たる例で。あのレースは、ドルチェモア、レイベリング、ダノンタッチダウンがその後凡走を繰り返しましたから、レースレベルは下方修正を繰り返しています。本来は2歳王者決定戦だから、こんなのは例外中の例外だとは思いますが。これを全レースでやるのは、MTP もマスターの予想でも同じでしょう？

予想屋マスター

その通りです。芝オープンで特別登録のある馬について、JRA-VAN で1頭ずつ分析していくということですね。例えば、大阪杯やダービー卿チャレンジトロフィーのように芝オープンのレースが週末に複数ある場合、週中予想は全部のレースでやるんですか？

玉嶋亮

当然、週中予想は芝オープン全てでやります。ただ、2023 年 NHK マイルカップのように、過去の条件戦をどんどん遡っていかないと能力比較ができないようなレースは、ごく一部例外的に予想自体を放棄しちゃう

こともありますけど。NHKマイルカップ1レースのためだけに、条件戦をどんどん遡っていくのって、生産性が低すぎて、やってられませんからね笑。そういう時は、レースが終わってから、上位入線馬だけを回顧します。こういうレースって、そもそも古馬のオープンクラスまで上がって活躍できる馬は、片手あれば足りるんじゃないですか？古馬オープンまで上がってこられない馬まで全部チェックするところまでは、私にはやりきれませんから、割り切りです。Twitter で出しているのは、その一部でしかありません。Twitter で呟くのは、基本的には週に1レースですね。

予想屋マスター

その1レースって、どうやって決めるんですか？

玉嶋亮

基本的にはG1や注目度が最も高いレースですかね。やっぱり、私が求められているのって、そこだと思うので。自分が何を書きたいか？はあまり考えていなくて、ファンが私に求めている役割に徹しようとは、常に思っています。

予想屋マスター

それをやる場合には、出走馬のアイウエオ順で調べるのですか？

玉嶋亮

JRA-VANではアイウエオ順で並んでいるので、アイウエオ順で1頭1頭ずつチェックして行って、チェックの終わった馬から順番にツイートしていきます。

予想屋マスター

なるほど。それらを1週間かけて、週中予想していくということですね？

玉嶋亮

そういうことです。平均すると、月曜日から金曜日までで、『競馬の教科書』に書いている通りで、6時間くらいだと思います。ここで、ちょっと『競馬の教科書』に書いていることと違うので訂正しておきたいのですが、週中予想は基本的に全部のレースでやっています。それをやっておかないと、週末に高い精度で期待値を出せないのです。

予想屋マスター

さっきも同じトピックがあったけど、やっぱり週中に最低限、メンバー間の序列は出しておかないと、週末の最終予想の局面で困りますよね。

玉嶋亮

その通りです。週中予想の段階で、MTPみたいなものがあれば、そんなに一生懸命やる必要はないんですけどね。私の説明が悪くて、それをすっ飛ばして、先程あったように「期待値の高いレース」「期待値の低いレース」というハナシが始まってしまったので。ミスリードしてしまったかな？と思いました。結局、週末に枠順が決まって、オッズとトラックバイアスが分からないと、期待値なんて分かる訳ないですから。

予想屋マスター

そうそう。ちょっと気になっていたんですけど、『番付』ってあるじゃないですか？あれって、全部のレー

スで付けているんですか？

玉嶋亮

いや、付けていないですよ笑。あれは、無料メルマガ会員様にとって、序列を分かりやすいように公開したものです。

予想屋マスター

あれは、皆さんに分かりやすく番付にしたということですよ？絶対大変だもん笑。僕ならあそこまでやらないよ。『番付』を作ろうと思った理由って何かあるんですか？

玉嶋亮

2022年の安田記念だったかな？それに限らずなんですけど、週中は序列を作るだけなので。あの時は、『◎候補（1着候補）』が5頭、『△×候補（2,3着）』が7頭いたんですよ笑。

予想屋マスター

それで？

玉嶋亮

苦情がめっちゃ来るんですよ笑。週中予想は、あくまで『能力比較』をした上で、序列を付けておいて、週末の枠順、トラックバイアス、オッズを見て印を確定するんですけど、それが違う方向に伝わってしまっ。「こんなに印付けまくれば、どれか当たるだろう？ふざけるなよ」と言われてしまったので、「じゃあ、どうする？」ということで生まれたのが『番付』です。

予想屋マスター

そういうことね。あの番付、競馬ファンの方々に分かりやすくしたということですね？

玉嶋亮

そういうことです。ですから、読者の方々は、JRA-VANの印を『◎=大関』『○=関脇』『△=小結』みたいな運用にしていただければ、手間もそんなに掛からないと思います。

予想屋マスター

なるほど。じゃあ、金曜日くらいまでに大雑把な能力分析はしてきますと。ここまで分かりました。その後、枠順が決まった後に新聞を買うのですか？

玉嶋亮

新聞は買わないです。週初めからレースが終わるまで、JRA-VANだけしか使わないです。

予想屋マスター

JRA-VANは、印刷しますか？

玉嶋亮

しないですね。完全に画面上だけ。印刷して、となると、机の上で腰を据えてやらなきゃいけないじゃないですか？『競馬の教科書』では、あくまでもスキマ時間で予想することを大事にしているの。

予想屋マスター

まとめると、玉嶋さんは一切競馬新聞は買わない。雑誌も見ない。基本的には JRA-VAN を画面上で見ただけで印刷もしない。面白いですね。

玉嶋亮

そうですか笑？印刷して、机の PC とにらめっこして、となると、それこそ仕事になっちゃいますから、そこまでやるつもりはないですよ。できないと言う方が正確か？スキマ時間でそこまでやろうとすれば、逆に非効率になると思います。印刷するのも、パソコン起動するのも、意外と時間が掛かりますからね。

予想屋マスター

確かに。。。あと、オッズのチェックとかどうやってやるんですか？

玉嶋亮

馬券が発売されてからチェックするようにしています。初動の単勝、馬連の合成オッズを見れば、馬券を買える買えないが、何となく分かりますね。逆に訊きたいのですが、マスターはオッズのチェックをどのようにやっているんですか？

予想屋マスター

僕は他社がつけた予想オッズを見たいので、主要な新聞は全部買うんですよ。他社が付けたオッズを確認するためだけに買っています。

玉嶋亮

確かに、前日に予想を出さないといけない立場だと、見ないとどうしようもないですね。私とは全然違って当然です。

予想屋マスター

では、次の質問ですが、前日までにどのレベルまで予想しますか？トラックバイアスまで予想しますか？

玉嶋亮

トラックバイアスについては、基本的にはノーマークです。前週の結果から、「こうかな？」くらいはイメージしますが、あまりそれにこだわったところで、先入観に支配されちゃいますから。当日見れば良いよね、のスタンスです。例えば、2023 年京都記念の週は開幕週でした。Twitter では、開幕週だから、「ユニコーンライオンの単騎逃げにが美味しい」という声が多かったように思います。でも、フタを開けると、開幕週の割には内外フラットなトラックバイアスでした。若干、内が有利だったような気もしますが。

予想屋マスター

あれね、土曜日に僕も Twitter で呟いたけど笑。

玉嶋亮

そういうとこ、意外とマスター優しいっすよね笑。あのツイートで助けられた人は、結構多かったと思いますよ。当日のトラックバイアスだと、ユニコーンライオンにとってまあまあキツくて、ドウデュースの差し損ねリスクは、かなり低かったと思います。

予想屋マスター

まとめると、金曜日時点までは先週のレースを見て、トラックバイアスのイメージを掴んでおいて、こんな感じくらいかも、で留めておくということですね。そして、土曜日に競馬を見る流れ。例えば、土曜日に芝オープンレースがあって馬券の検討をしたら、土曜日の午前中を見て、最終予想を固めるのですか？

玉嶋亮

仰る通りで、当日まで決めません。印は粗く打っておいて、絞らない。印を絞り込んで、週中に打った印を当日まで打ち換えないというのは、予想手順として結構大事だと思っています。土曜の競馬が始まる前に絞っちゃうと、後戻りするのにも物凄く抵抗がありますから。ギリギリまで、のりくり絶対には決めません。

予想屋マスター

今の話で、すごくクリアになりました。月曜日から金曜日までは、全ての馬の能力分析だけに徹するということですね？そして、金曜日に枠順が出て、最終予想まではいかず、当日になってトラックバイアスを見るまでは絶対に最終予想にいかない。じゃあ、最終予想で印を確定させて、馬券を買うのはいつですか？

玉嶋亮

ケースバイケースですね。例えば、日曜日のレースで馬券を買うとして、ずっと晴れだったら、土曜の馬場と同じだから、日曜日の朝に買ってしまふこともあります。逆に、当日が雨でギリギリまで悩んで、結局買わないという判断もありますし。やっぱり、雨の日は本当に悩みますね。マスターでさえも、難しいでしょう？例えば、2022年京都大賞典でヴェラアズールが勝った日は、本当に悩んだ挙げ句、馬場読みにも自信が持てなかったの、馬券を買うのを見送りました。

予想屋マスター

結果的にだけど、見送りが正解だったよね。

玉嶋亮

そうなんです。本当に結果論。実は、あの日は内前有利のトラックバイアスだったら、ボッケリーニを中心に前残りの買い目を仕込もうと、ある程度決めていたんですけど、当日はずっと雨が降り続けるし、その前のレースでは騎手は外目外目へ進路を取るから、「外が有利なの？」というハナシだったんですけど、条件戦上がりのヴェラアズールが果たして本当に強いかどうか？に確証が持てませんでした。要は、予想がまとまらなかったんです。こういう時は、無理をせずに見送るのが吉です。ただ、ヴェラアズールの場合は、京都大賞典、ジャパンカップまで最大出力を更新し続けましたから、仮に京都大賞典の当日に多少内前有利のトラックバイアスだったとしても、差し切っていたら、とは思いますが。でも、未知の魅力や最大出力の更新に過剰な期待をしたらいけないと思っています。予想って、過去のレースからやるのが基本で、未来のことなんか分からないからね？というのが基本ですから。3勝クラスから重賞挑戦する馬って、壁にぶつかる馬の方が圧倒的に多いですからね。未知の魅力に過剰な期待を持つ予想って、まず勝てないと思います。まあ、それって、そもそも予想とは呼べない『希望』だと思いますが。

予想屋マスター

それ、めっちゃ分かる。逆に、差し追い込み馬が強いのが分かっている時に、内前有利のトラックバイアスだった場合に、逃げ先行の馬がどこまで恵まれるか？って、物凄く判断が難しいもん。

玉嶋亮

2022 年天皇賞秋なんか、そういう状況だった気がします。強いと思われるクイノックスにダノンベルーガ。前に行きそうなパンサラッサ、ジャックドールがどこまで恵まれるの？というレース。匙加減で如何様にも予想できちゃうから、難しいですね。なんか、私の話ばかりしているような気がするので、マスターの予想ルーティンについても教えてください。

予想屋マスター

僕は、翌週のメインレースの記事を書いてホームページに公開しないといけないので、その週の1番大きいレースの出走予定馬を分析しながら記事を書くのが月曜日ですね。あくまで記事のためなので、1番大きいレースだけしか分析はしません。火曜日、水曜日は、前週の土日のすべてのレースビデオを見直して、検証します。専門誌 Gallop のレース結果欄に、朝の1レースから最終レースまで全ての競馬場で、コーナーワークと直線の位置取り、レースの中で不利が起きたとか、出遅れとか折り合いを欠いていたとか気付いたこと全てをメモっておきます。

玉嶋亮

これって、前から気になっていたのですが、本当に2回しか見ないのですか？やっぱり慣れですか？

予想屋マスター

1レースにつき、2回が基本ですね。1回は、ビデオというより、レース当日のライブ中継。もう一回が翌週の火・水曜日の回顧。(パソコン見ながら)このようにして、Gallopの結果欄に道中の位置取りからレース中に気付いたこと全てを書いていくんです。これを3場開催なら、土日の72レースを火曜日、水曜日で分析しています。

予想屋マスター分析動画▼

<https://www.youtube.com/shorts/cantRtxHM6Q>

玉嶋亮

なるほど。あれね、マスター。仰っていることは分かるんですけど、これを我々アマチュアが机に座って、専門誌広げてやるのって、多分まあ無理ですよ笑。独身だったらいけるとは思いますけど、奥様やお子様がいる家庭でこれをやったら、間違いなく家庭が崩壊します笑。これを読んでいる方のほとんどがアマチュアですから。

予想屋マスター

そのために、僕みたいなプロの予想屋が、それを代行しているんじゃないですか笑？

玉嶋亮

そりゃそうだ笑。

予想屋マスター

話を戻します。木曜日は、椎名さんと Q&A で翌週(10日後)のメインレースの動画を撮影しています。金曜日は、枠順が出た直後に手束真知子さんと今週のメインレースの動画解説を撮影してから、土曜日の予想を開始します。ここまでの話で分かったかと思いますが、僕は、基本的に枠順が決まって、新聞が出るまで一切予想をしません。土曜日は、当日のレースを見ながら、土曜日のレースを検証しつつ、トラックバイアスを補正しながら、日曜日の予想をします。ここまでの仕事は概ね終わり、日曜日はレースを見ながら、ざっく

りレース内容を検証しつつ、Twitter で呟いています。

玉嶋亮

なるほど。私の場合だと、月～金まで大方予想は終わっていて、それから粗い印のどれを削っていくか？を考えています。マスターの場合は、金曜日の午後から本格的に予想するとのことですが、そこからどれくらい時間をかけていますか？

予想屋マスター

土曜日のレースは、金曜日の 11 時半くらいから予想を開始して、早いと 19 時、遅いと 21 時くらいまで掛かっています。平均すると大体 8 時間くらいかな。日曜日のレースは、土曜日のレースの合間に、同じくらいの時間を掛けてやります。トラックバイアスを見ながら。

玉嶋亮

1 レース何分くらいですか？

予想屋マスター

1 レース 30 分から 1 時間くらいですかね。後半 7-12 レースの合計 18 レースをお客様に提供しているのですが、実はそれが終わったあとに、午前中の 1~6R (新馬・障害を除く) についても予想しています。商品にしていない午前中のレースを予想している理由は、前半に出走する馬の強さを把握しておかないと、トラックバイアスの分析が正確にできないので。あとは、レースのレベルを把握するためにも、一通り分析しておく必要があります。

玉嶋亮

そうなんですか？それは知りませんでした。午前中のレースが、後々の予想の判断材料にもなるからということですね。

予想屋マスター

ただ、7~12R は会員様へ予想を提供するから、二択で迷った時に軸をどちらにするか、紐でどの馬を 1 点目、どの馬を 2 点目にするかとかまで細かく考えますが、午前中のレースは、紐の順番までは考えないけど、後半と同じレベルでしっかり予想はします。

玉嶋亮

まとめると、私の場合だと、月から金まで回顧の振り返りを含めた週中予想をやっていますが、マスターの場合は、月から金の枠順確定までは基本的には先週の回顧オンリーで、新聞が出てからしか一切予想をしないということですね。

予想屋マスター

仰る通りです。

玉嶋亮

素朴な疑問なんですけど、マスターは、新聞が出た時に「この馬ってこうだったよね」みたいな話は、頭の中に当然入っていらっやるんでしょうけど、「この馬って、そう言えばどうだっけ？」みたいな時はどうしているんですか？JRA に登録している馬って、数千頭いるはずで、それを全て記憶するのって、どれだけ記憶

力が優れていても、いくらなんでも生身の人間には無理じゃないですか？芝オープンだけなら 300 頭くらいしかないから、人間の記憶力でもなんとかできるけど（それでも、見直す時は見直しますが）。

予想屋マスター

例えば、大阪杯で、ノースブリッジの前走はどうだったかを考える時に、金・土の限られた予想時間内に動画を見始めたらキリがないので見ないです。ノースブリッジの前走は、2023 年 AJCC、つまり 2023 年 1 回中山 8 日目。その日のトラックバイアス、ノースブリッジのコース取り、道中の事象などは、回顧時にギャロップの成績欄に記載していてそれを電子ファイル化しているので、それを引っ張り出してきて再チェックしています。電子ファイルに記載されているトラックバイアスは ABCDE と記録されていて、D はフラット。AJCC の日は、芝がフラットでダートが若干イン有利。トラックバイアス表記ですが、A はかなりイン有利で、B はイン有利、C は若干イン有利、E は外有利となっています。これを全てのレースの出走馬についてチェックを繰り返しています。このように、きちんと平日中にレース回顧を繰り返しているからこそ、金・土の予想時間では過去のレース動画を見ないで予想できています。ぶっちゃけ、予想時間に動画を見始めていたら、絶対に予想が終わらない。前日のうちに予想を配信しなきゃいけないし、配信時間までに予想を終わらせないとどうしようもないので、ここは割り切りですね。

玉嶋亮

どうやっているのかなと、ずっと気になっていたんですよ。レース映像まで振り返らなくても済むように運用しているのは、納得です。そうじゃないと、とてもじゃないけど終わる仕事量じゃないですから。仕事だから当然ですけど、まあ大変だ。

予想屋マスター

これを朝の 1 レースから 12 レースまで 3 場 36 レース全部やっているだけなんです。僕の場合は 1 人で回しているから、こうやって効率よく予想しないと無理なんですよ。『パドック』とか『追い切り』とか、分からないのもありますが、見る時間がないんですよ。あとは、新聞の馬柱やコメントを読んで、「不利」と載っているとレース動画を再チェックすることはありますが、本当にレアケースですね。

玉嶋亮

え？それは意外でした。そういうのは一切見ないものだと思っていたので。

予想屋マスター

いや、僕も人間だから。見落としがあると怖い。だから、そこは謙虚に「不利があった」と新聞に明記されているレースで、自分にその認識がないレースについては本当かどうかチェックしますよ。それで「あ、見落とししていた」となるレースは、月に数回くらいはあります。やっぱり、仕事ですから、チェック機能も回していかないと。人間ですから、完全無欠の予想をするなんて不可能で、ミスをする前提で仕事を進めていかないと、そのミスが致命傷になりかねないですからね。お客様に予想を売っている以上、ミスする時はミスるんだけど、僕にできるベストの予想を提供しないと、とは常に思っています。レース回顧では 1 頭 1 頭をスタートからゴールまでずっと見ている訳じゃないし、パトロールビデオも見ないから、頻度は多くないにせよ、見落としがあって当然なんです。あと、映像で映っていない不利な状況は把握できないし、JRA-VAN ではなく、新聞を使っているのは、30 年近く予想屋をしていて、新聞を見ながら予想をするのに慣れてしまっているところはあると思います。

玉嶋亮

あと、私も本業では『紙派』なんですけど、仕事をするわけだから、紙でないと予想できないというか。実務をやっていると、紙に書かないと、なかなか頭に入ってこないということですね？ボリュームがあるから。

予想屋マスター

そう。印刷した紙でないと予想の時間が増えますね。弁理士の仕事の時も、書類の最終チェックは紙に印刷されたものを読まない、「ここは見なくても大丈夫だろう」と先入観でミスを見落としてしまうことがあるのと同じような感じですかね。

玉嶋亮

なるほど。

予想屋マスター

まとめると、僕の場合、平日は前の週のレース回顧で、枠順が確定する金曜日まで全く予想をしません。数ある競馬新聞の中で研究ニュースを買って予想しているのも、昔から買っていて慣れているからという理由だけです。本当はどの新聞で予想しても構わないと思っています。よく新聞のオススメありますか？と質問受けるんですが、値段の安いスポーツ新聞で十分と思いますよ。僕の場合は、人気をある程度把握するために全新聞を買っているだけです。お客様に予想を前日に送らなければいけないので。その理由は、前日に予想を提供して欲しいというお客様のニーズに応えているからです。僕個人としては、当日のトラックバイアスを加味した上に、当日のオッズを見て、予想を提供したいという思いもあるのですが。。。当日は仕事がある、予想が届いてから自分で買い目を決めるまでの時間が欲しいなど、前日に予想が欲しいと仰るお客様が非常に多いので。

玉嶋亮

私から読者に向けて言いたいのは、この本を読んでもくださる方々って、サラリーマンの方がほとんどだと思うんですよ。多分、電車で観たり、お昼休みに観たり。忙しい方が多いと思うので、皆さん色々工夫や苦勞をしながら予想をしているのは、よく知っているつもりです。JRA-VANではメモできたり、色々できたりしますから、私がこれで書いているところが落としどころかなとは思いますが。

予想屋マスター

仰るとおりです。僕の場合は、商品として提供する18レースを前日に予想しないとイケないので。回顧のデータベースでまとめているトラックバイアスの一覧を提供することもできますよ笑

玉嶋亮

それ、今度やりましょうよ。マスターの馬場読みデータベースなんて、商品価値が物凄く高いと思いますよ。

予想屋マスター

確かに。以上が我々それぞれの1週間のルーティンですね。

玉嶋亮

そうですね。『競馬の教科書』では、具体的に私の1週間の過ごし方を書きましたが、まったく同じでなくても良いと思います。ベースは示したつもりですので、読者様の生活スタイルや好みに合わせて、アレンジしていただければ良いと思います。

予想屋マスター

次に、券種の話にいきましょう。予想を基本的に忠実にやって、その中で期待値が高い買い目を仕込もうね、ということですね。そして、次に大事なのが、馬券の買い方ですね。実はこちらのお客さんの中には僕よりも馬券の買い方が上手い方が結構いて。ぶっちゃけ、同じ予想で馬券を買っているわけだから、お客さん同士で配当の奪い合いをしている状況なんですよね。でも、玉嶋さんはまた毎回色々な買い方を生み出して凄いですよね。

玉嶋亮

工夫はトコトンやっているつもりです。私は一つこだわりがあって、自分の予想（買い目）は絶対に売らないんですよ。予想を売ると、絶対に負けないんです笑。何故かと言うと、アマチュアの場合、予想を売れば、馬券で負けたとしても、予想の売上で負け分を補填できてしまうので。要はヌルいんです。プロの予想屋の場合、Paddock Lab にしたって、予想屋マスターにしたって、売上が落ちたら自分やスタッフが生活できなくなっちゃうから、廃業して露頭に迷います。当然、必死なのは自明です。プロだから、そういう闇の部分は見せないだけで。一方、アマチュアが予想を売るとすれば、自分は馬券を買って楽しみたいのが根っこにあるから、真綿に守られた予想しかできなくなるのは目に見えています。そうじゃない人は別として。私はそんなに自分に厳しくないから、予想なんか売れないという訳です。仕組みとして、退路があると、予想や馬券に甘さが出ます。売ってしまうと、予想と馬券で必死になれないから、馬券の買い方が上手くならないというのが私のポリシーです。やっぱり、退路は常に塞がないと。

予想屋マスター

なるほどね。

玉嶋亮

予想なんか売ったら、予想で手を抜き始めるのは、目に見えているし。とりあえず圏内に来そうな馬を挙げて。それで当たったみたいなの。そんなの、競馬に対する冒涇です。

予想屋マスター

人と同じ馬券を買おうと、どんなに良い穴馬でも穴馬でなくなっちゃうし。期待値も下がる。他の競馬ファンがどう動くのっていうことが大事ですよ。大阪杯でいうと、ジャックドールとスターズオンアースを買う人の大多数って、この2頭を買っても倍率が低くて儲からないと思う。だから、この2頭で配当が付く3連単を買おうぜという発想になってしまう。逆にジャックドールとスターズオンアースは買う人って、複勝を買ってもしょうがないから単勝に行こうになるし、少しでも高配当を求めて、難しい券種の馬券を買おうというのが、本命を買う人の気持ちなんです。

玉嶋亮

仰る通りです。オックスのリバティア일랜드ーハーパーの馬単（6.8倍）、馬連（5.9倍）も同じですね。リバティア일랜드はともかく、ハーパーが強いのを認めた上で、2番手候補は大混戦でした。この買い目は、ちょっとね。。。ハーパーも能力的に抜けていて、1点でバシッといければ別なんですけど。そうではありませんでしたから。

予想屋マスター

逆に人気のない馬、例えばダノンザキッドを買う人って何を考えるかっていうと、ダノンザキッドを買いたいけど、こんなに人気がないってことは来る確率は低い。オッズをみたらワイドでもそれなりに儲かると考えて、簡単な馬券に流れちゃんですよ。そこで何が起きるかっていうと、人気馬は難しい券種ほど売れすぎて、

人気馬の簡単な券種は売れない。逆に穴馬の簡単な券種、例えば複勝やワイドは、みんながチャレンジするから想像以上に倍率が低くて、逆に穴馬の三連単は誰もチャレンジしないからすごく高くなる。そういう意味で考えると、人と違う馬券を買おうねって発想に立てば、人気馬は簡単な券種。穴馬は難しい券種というのが一つの考え方。ここからどうアレンジするかですね。

玉嶋亮

『競馬の教科書』でも書いている内容ですね。これはちょっと気を付けなきゃいけない。「予想と馬券は切り離せ」という話をよくするんですけど。予想は普通に、基本に忠実にやって。馬券は徹底的に人と違う買い目を仕込むべきだと思います。

予想屋マスター

凄く大事だと思います。じゃあ、本命馬や人気馬を買う時に複勝チャレンジがいいのか、単勝がいいのかって言われたら、僕もすごい同意で、複勝チャレンジの方が期待値は高くなるんじゃないかなと。収束も早くなるしね。ところで、玉嶋さんの単勝多点買いはどのような発想でしたか？

玉嶋亮

それも収束の問題ですね。

予想屋マスター

僕の場合は予想レース数が多いからだけど、玉嶋さんの場合は芝のオープン予想って、レース数がそれこそ、僕の10分の1くらいじゃないですか。その中で収束を早めようとする、手を広げないと収束しないってことですね。

玉嶋亮

そういうことです。だから、馬単買う時も1着に3、4頭普通に入れて、それでフォーメーションを組むこともザラです。これをやり始めた時は、随分叩かれたんですよ笑。1着候補に複数入れるということは、自動的に来ない目を同時に仕込んでいるというツッコミでした。でも、トータルコーディネートで期待値が高い買い目を仕込んでいるから、これで良いんだと言い続けました。

予想屋マスター

絞って買うよりは広げて、亘さんのように期待値が1を超える馬券は全部買おうねって発想ですね。

玉嶋亮

どちらかと言うと、そうです。だから、とにかく走らなそうな馬の中から、人気を背負っている馬を探します。走りそうな馬じゃなくて。能力の低い馬って、恵まれたところで、好走できる可能性って、事故でも起こらない限り、限りなく小さいじゃないですか？そういう意味で、期待値の低い馬を1,2,3頭見つけられれば、それだけで期待値1.0は優に超えていきますからね。

予想屋マスター

分かります。それがあって、初めて馬券を買う条件が揃いますね。それで、そうした馬券を買う条件が揃わないレースは買わないというのが基本にあって。期待値が高そうなレースを見つけた場合、普通の人が期待値高そうだからと、何となく買うんじゃないで、予想を完璧に近い状況に持って行って、オッズとぶつけた結果、期待値が高そうな買い目を見つけるということでしょうか？その中で、どうやって馬券の効率の上げていくかを

試行錯誤して、『単勝多点買い』だったり、『複勝チャレンジ』だったり。。ということですね。

玉嶋亮

そういうことです。

予想屋マスター

次は雨の影響ですね。僕が思うに、ダートの場合はほぼ関係ないです。まあ、雨降ったから前残りだったとか、それはトラックバイアスの問題だと思っています。トラックバイアスに雨の影響があるだけなので、トラックバイアスを正確に判断できれば予想としては影響がない。一方で、重適性が出るのは、芝の重・不良だけだと思います。芝の重・不良は、芝の良馬場の成績で能力分析すると、本当にどう見ても能力が足りていない馬が来たりするんだよね。芝の良馬場と重・不良とでは全く競馬の質が違うから、凱旋門賞で走る馬を見つけるみたいなの。ここだけは、サンプルが少なすぎて分からない。みんなが思っている以上に重適性って難しい。今の時代って、日本の競馬場の馬場管理技術が凄すぎて、本当に道悪適性が問われるほどの極悪馬場って、年に数日しかないんですよ。重適性って実際に走ってみなきゃわからないし、その極悪馬場を走ったことない馬がほとんどなんです。こう考えると、芝の重・不良の時だけは個人的には馬券を買わない以外の選択肢はないかなと思っています。

玉嶋亮

これについても、『競馬の教科書』に書いている通りで、同意です。重適性って言いますが、稍重までは関係ないですね。やや重から重に変わったくらいまでは、良馬場と同列扱いでOKです。重馬場が不良馬場に近くなってくると、マスターが言うように、重馬場適性が問われてきますね。

予想屋マスター

重馬場でも、最近は馬場乾くのが早いから、あんまり関係ないんですよ。ただ、馬場がドロドロになって、1200mで1分11秒とか、2000mで2分5秒とか掛かり出したら、もう訳分かんなくなるんです。その時ぐらいですかね。さっきの距離適性と同じで、競馬ファンが調べる重適性ってG1レースですら、未勝利の1着を言ったりするから、本当に意味がない。重馬場が要因で本当にパフォーマンスが上がっているかどうかの話をするなら同意するんだけど。過去に重馬場で1着〇回、2着〇回、着外〇回って話ばかりで、本当の重馬場適性の話をしている人をきいたことない。重馬場の本当の適性を考えると、108日間開催があって、適性差がでるドロドロ馬場の芝って10日もないんですよ。その条件で走ったことある馬がほとんどいないのに、なかなか重適性は判断できないからね。

玉嶋亮

はい。その通りだと思います。

予想屋マスター

あ、そうそう。これも玉嶋さんに訊いておきたかったんですけど、ダートの方が馬場読みが簡単じゃないですか？それについてはどう思いますか？

玉嶋亮

仰る通りです。

予想屋マスター

じゃあ、何故『芝オープン』に特化して本を書こうと思ったんですか？『ダートオープン』の方が絶対書きやすいじゃないですか？

玉嶋亮

理由は2点あります。1つ目は『芝オープン』の場合、重賞やG1があって、JRAの中で最も売上が大きいんです。だから、『競馬の教科書』がベストセラーになったとしても、読者様の中で食い合いが起こらないと考えました。そうなった場合に読者様も私も、袋小路に突入します。先々のことを考えた時に、そうはなりたくなかったのです。自分がやるだけだったら、別にダートでも良かったと思います。

予想屋マスター

そこまで考えて、芝に特化した本を書いたということですか？

玉嶋亮

そうです。だってダートって、あまりにも売上のパイが小さすぎるから、行くところまで行けば、オッズに影響を与えて読者様同士の食い合いが始まります。だから、マスターのところも『プロプラン』の会員様には、抽選制を敷いているじゃないですか？

予想屋マスター

なるほどね。ずっと疑問だったんです。何故、どちらかと言うと簡単なダートじゃなくて、敢えて難解な芝にいったんだろう？と。

玉嶋亮

あと、もう1つは、芝の方が馬場読みが難しいというのが理由です。我々アマチュアの強みって、予想を売る訳じゃないから、ギリギリまで馬場を見極められる特権があるじゃないですか？世の中の競馬ファンって、馬場を読めない人、ハナから読む気のない人が沢山いるから、アドバンテージを取れるんですよ。馬場読みのファクターだけで言うと、芝の方がダートよりも圧倒的にアドバンテージを取れますから。手間は掛かりますけどね。

予想屋マスター

なるほど。ダートじゃなくて、芝を選んだのにも、単純明快な理由があった訳ですね。納得しました。

第5章 能力比較 – 番付を作成する –

玉嶋亮

第5章も前半部分ですけど、中途半端になりそうなので、バランスを考えて『後編』に見送ってもよろしいですか？内容的にも、『後編』にする方が良い内容です。半端なものを世に送り出すのは、私は嫌だし、読者のメリットが何もありません。マスターも本意ではないでしょう？

予想屋マスター

そうしましょう。

第6章 レース映像 – 現場を検証する –

予想屋マスター

次はレース映像です。見た目が9割という話ですね。

玉嶋亮

レース映像はちゃんと見ようね、というハナシです。この章はシンプルにそれだけ。いきなりラップとか着差とかの数字に行くのではなくて、とにかく映像をよく見ましょう、ということです。

予想屋マスター

古すぎる話かもしれないけど、ペルーサ。後方ポツンで、ゴール前で脚を余したように見える馬が強そうって、競馬ファンはいつの時代も変わらないよね。

玉嶋亮

前回の『競馬の教科書 別冊 プロアマ対談』でも出てきましたけど、マスターってペルーサ好きですよ笑。

予想屋マスター

いや、好きな訳じゃないよ笑。でも、常に過剰人気して飛び続けたじゃん？スタートで出遅れてゴール前だけ、ビジュアル的に凄い脚で追い込んでくるから、スタートさえ出れば勝てたみたい。競馬ファンって、いつの時代でも、ああいうタラレバ系の馬が大好きだよな？

玉嶋亮

ゴール前で脚を余すことなんですけど、私は皮肉を込めて『スピードガンコンテスト』って呼んでいます。

予想屋マスター

スピードガンコンテスト www

玉嶋亮

例えば、直近3,4年だとシヴァージとか、デゼル、タイセイアベニール、タイセイビジョン（タイセイダブルドラゴン）がそうですかね？ゴール前で、どの馬よりも速く駆け抜けるから。だから、スピードガンコンテストです。ただ、好走はするんですけど、なかなか1着が取れない割に、単勝がやたら売れるというか。なんかもう、別の競技ですよ。だからそって、ポツンと1頭いる状態は結構分かってない人が多いと思います。ポツンはすごく大事な話で、離れた2番手3番手とか。

予想屋マスター

今挙げた馬のほとんどって、後方をポツンと気分良く追走しているんですよ。ゴールまで脚が残っているから、ゴール板前後でとんでもない脚を使う。横山典騎手が、ポツンをやることで競馬ファンによく叩かれている。ポツンで届かず3着を見ると、もう少し位置を取りに行っていたら届いたという話を競馬ファンがするんだけど、あれを馬群の中に入れたら、むしろ惨敗するからね。

玉嶋亮

その通りです。2022年有馬記念のジェラルディーナは正にそう。出遅れてポツンのストレスフリーだから3着まで来ているのであって、『競馬の教科書』で書いた『満員電車』の話ですね。馬群に入れちゃうと、馬に強いストレスが掛かるから、ほとんどの場合で同じ末脚は使えません。

予想屋マスター

有馬記念のジェラルディーナなんか、典型的だよね。ジェラルディーナに関して更に言うとエリザベス女王杯なんかも外枠しか来なかったトラックバイアスに恵まれて、逆にオールカマーは1,2,3枠で決まったインコース有利のトラックバイアスに恵まれた。そう考えると、大阪杯の一線級相手ではちょっと力が足りないんだよね。

玉嶋亮

言っておきたいのが、騎手も馬鹿じゃないから、ゴール板を先頭で駆け抜けられるように逆算して乗っているじゃないですか？特にオープンクラスのようにレベルの高いレースだと、レースの質が軽かろうが重かろうが、ほとんどの場合、1着で駆け抜ける馬はゴール板の前でギリギリの戦いを強いられています。だから、減速するのが当然なんですよね。だから、1着やそれに近い馬は、一杯一杯で減速していて、その一方で、先程挙げた「脚を余した」ように見える馬は余力があるから、ビジュアル的にゴール板前後で凄まじい末脚に見える。それに惑わされちゃいけません。

予想屋マスター

何故、競馬ファンのほとんどが分析できないか分かりますか？

玉嶋亮

レース映像を、ちゃんと見てないからでしょう？

予想屋マスター

レース映像をちゃんと見ないと、ポツンを見つけることはできないですよ。みんなレースを本当に見ていない。ちなみにポツンというと、最後方をイメージされるかもしれませんが、僕らが言っているポツンというのは、周りに馬がいないで気分良く走れる状態を言っているのです、どの位置でもありえます。こう考えると、全レースで過去にポツンがどれだけあったかなんて、意外と誰も把握できないですよ。

玉嶋亮

確かにそうかも。マスターが『YouTube 直前解説』でよく言うあれですよ？「離れた2,3番手を気分良く追走。。。」。レース映像の道中は、どの馬が気分良く追走できているか？をしっかりと見るのは大事なポイントですね。例えば、気分良く2,3番手を追走して揉まれなかった馬が次走も気分良く走れる保証はどこにもないですからね。Paddock Labの『Paddock シート』でも、揉まれ弱いことを示す『揉』の記号がありますから。見ているポイントは、大体同じだと思います。Paddock Labの真骨頂って、実はここで、レース映像を緻密に見ていかないといけないところをちゃんと分析しているところなんですよね。レース映像の分析でやっていることは基本的に我々と同じです。MTPは、上辺だけの薄っぺらい指数ではないですからね。だからこそ、常連の会員様にも支持されているのだと推察します。

予想屋マスター

馬群から離れたところを気分良く追走した馬が差せた時って、ポツンでたまたま単騎逃げと同じ状態になったよねっていう話って、レース映像をしっかりと分析しないと分からないですよ。膨大な時間がかかりますね。

玉嶋亮

レースを記憶できるまでちゃんと見ましようっていう話しかできないですよ。

予想屋マスター

玉嶋さんが本で書かれたように、東京の品川駅から有楽町駅まで満員電車で揉まれる状態で乗っているのと、空いている状態で座っているのでは、全く気分やストレスが違うよね。

玉嶋亮

そうなんです。そこがやっぱり気分良く運んだというところが、一番言いたいかな。このレース映像の話では。

予想屋マスター

ポツンの話を動画解説でよくするんだけど、僕以外の人がポツンの話をしていることをみたことがないですね。

玉嶋亮

確かにそうですね。ポツンで気分よく行ったから勝てたという話は聞かないですね。

予想屋マスター

TVの競馬番組やYouTube番組でもポツンの話ってまずないですね。日本でポツンの話をしているのは我々だけかもしれないです。

玉嶋亮

そう言われてみれば。そういう意味で言うと、Paddock Labも同じですよ。『揉』の記号がありますから。

予想屋マスター

まあ、いないよね。前崩れで追い込んだとかいう解説は良く聞くけど、ポツンはないですね。今まで惨敗していた馬が急に走ったというところは、ほとんどポツンが理由です。

玉嶋亮

それは結構、単騎だからというのは分かっている人は結構いそうな気がしますが、離れた2,3番手や後方ポツンは、なかなか見ている人は少ないかも知れないですね。私の場合は、3勝クラスを快勝した馬が離れた2,3番手だった場合に、次走で重賞挑戦する時は「これヤベーだろ」と評価することが多いですけど、それについてはどうですか？2023年中山金杯、小倉大賞典で惨敗したレッドランメルトなんて、典型的でした。

予想屋マスター

飛んじゃうパターンだよね。

玉嶋亮

やっぱり、3勝クラスと重賞とでは、レースのタイトさが全然違いますから。3勝クラスはポジション争いが重賞に比べると、ポジション争いが圧倒的にヌルいから。3,4コーナーや直線で仕掛けるまでマイペースで運べるんですよ。でも、重賞ではそうはいきませんから。レースで馬が受けるプレッシャーやストレスが全然違います。

予想屋マスター

そうは言っても、後ろからゴリゴリ来てプレッシャーを掛けてきたら、自分もポジションを取りに行かない訳にはいかないからね。クラスが上がれば上がるほど、どんどんタイトなレースになるよね。かと言って、後方ポツンや気分良く追走するだけだと、スピードに限界があるから、それなりのポジションを取りに行かざるを得ない。イクイノックスみたいなバケモノクラスの馬は別だけどね。でも、そんな馬って、ほとんどいないから。だからこそ、馬群に入れるレースを覚えさせなきゃいけないところもあるし。それについてはどうですか？

玉嶋亮

これは、イクイノックスの過去のレース見れば良いと思います。特に、ダービー、天皇賞秋、有馬記念。

予想屋マスター

そうですね。

玉嶋亮

ルメール騎手って、グランアレグリアとかアーモンドアイ、イクイノックスみたいな力が抜けている馬については、「気分良く走らせさえすれば」っていう思いがあるのか、とにかく馬込みに入れたいですね。「能力出し切りゃ、なんとかなるだろ」っていう馬。逆に、馬込みに入れて気分を害して惨敗させたら、責任重大ですから、それは騎手の立場では絶対に避けたいはずで。

予想屋マスター

そう。ダービーのドウデュースもそうだけど、イクイノックスって強いのは確かだけど、ルメールも武豊も、こういう馬に乗る時は、とにかく馬込みに入れたい。末脚が異常だから。本当に上手いよね。

玉嶋亮

そうですね。

予想屋マスター

ダノンベルーガは力が劣っているかもしれないけど、ダービーでも馬群にいれずに、ドウデュースやイクイノックスと同じような競馬をしていたら同じくらい走ったかもしれない。

玉嶋亮

そうですね。ダービーの時って、確かジオグリフがダノンベルーガに併走していたんですよ。私はあまり騎手の話はしませんけど、川田騎手は名手でありながらも、そこらへんがルメール騎手や武豊騎手よりもやや劣っている気がします。リバティア일랜드のオークスは、完璧でしたけど。年の功ですかね？まあ、ルメール騎手や武豊騎手が異常なんですけどね。イクイノックスやドウデュースみたいにマークされる立場でも、馬群が切れるポツンの位置にいることが多いですから。

予想屋マスター

ダノンベルーガも色気出してちょっと付いて行っちゃったから、結果的に外からも被されて厳しい位置取りに。ダービーとかの大舞台で、なかなか後方でポツンと1頭なんてできないですよ。なんかポツンの重要性だけで一冊くらい本が書けそう。

玉嶋亮

そうですね。

予想屋マスター

でも、ポツンだったから展開に恵まれて、着順ほどレース内容は強くないよねって話は比較的簡単にできるのだけど、僕ですらポツンで走る馬を想定するのは難しい。逃げる馬は想定できるけど、ポツンの馬は想定できない。

玉嶋亮

これ、結構大事かも。この前のスカーフェイス。

予想屋マスター

あれを事前に予想するのは絶対無理笑。

玉嶋亮

あれは分からないですね。でも、次に予想をする時に、その時に恵まれているからまた同じようになるとは限らないということだけは言えますね。それって、結構間違っちゃっている人がいるから、今回恵まれたらという話をするんだけど。いや、それは分からないからねという。恵まれるかどうか？なんて、読みようがないと言うか。「恵まれる」が事前に予測できるのは、単騎とかスローで先行とかはありますけど。例えば、関屋記念のウインカーネリアンとか。あの時は、能力的には比較的混戦だったんですけど、メンバーを見ると先行馬が少ないから、どう考えても恵まれるだろう、というのは言えました。

予想屋マスター

もうちょっと言うと、特に調教師とかにも教えてあげたいんだけど、逃げ馬が差す競馬を覚えたっていう馬がたまにいる。確かに差して好走したこともある。でもちゃんとレースを見ると、それはたまたまポツンで逃げた状態と同じだったから差せただけってということがよくある。やっぱり包まれると嫌な馬って、馬込みを嫌う逃げ馬の場合が多いからね。馬群に入れると走れなかった馬がたまに好走するのはポツンであることが多いんだけど、調教師は分かっていないよね。そういう意味でも、未来のレースでのポツンは想定できないんですよ。

玉嶋亮

そうですね。本書を読んでくださっている方々に言いたいのは、大きく3点です。①前走で恵まれた馬は、次走でも恵まれるとは限らない。②恵まれた時の最大出力は再現性があるから、最大出力がどの程度なのか？はしっかり把握しておくべき。③単騎逃げやSペースの先行で恵まれるのは、比較的予想しやすい、ということです。

予想屋マスター

次に、コーナリング能力ですね。玉嶋さんには『競馬の教科書 別冊』で対談した時に話しましたが、僕はコーナリングを見てないんですよ。本に書いてあることは同意しますが、僕はこの馬がこのように走った時に能力発揮するということを1頭ずつ覚えているので。過去のコーナーワークは全部見ているので、それが即ち玉嶋さんが言っているコーナリング能力と同義だと思います。同じことをしているな、とこの本を読んで思いました。

玉嶋亮

2022年の福島牝馬ステークス、確かアナザーリリックに◎をしていたじゃないですか？私も同じで、コー

ナリングが良かったのを高く評価していたのですが、マスターはあの馬をどう評価されましたか？

予想屋マスター

あの時は、先行馬が揃っていて、アナザーリリックは、佐渡ステークス（3勝クラス）で凄い脚を使って勝った。その後は展開が向かずに脚を余して負けていたので、馬群がバラけて、直線で外に出せば走ると思っていたから。後方から運んでも差し切る可能性が高いよねっていう予想でした。

玉嶋亮

なるほど。この場を借りて言っておきたいことがあって。『ピンク本』の前かな？実は、2021年『オレンジ本』の時にコーナリングのファクターを出したんですよ。

予想屋マスター

それで？

玉嶋亮

いや、結構流行っちゃったんです。コーナリングが。目新しいファクターだから、過剰に注目されちゃって。例えば、未勝利戦でマクって勝った馬がコーナリング能力が高いから、重賞でも通用するとか。「おいおいおい。。。｣と思って、「さすがに、それは違うぞ」「未勝利戦でコーナリングとか、関係ないよ」とはツイートしたのですが。

予想屋マスター

未勝利戦を不良馬場で勝った馬が、不良馬場の重賞で通用するっていうのと同じ論理ですよ？それは論理が飛躍しすぎ。

玉嶋亮

そうなんですけど、伝え方は気を付けないといけないな、と思いました。コーナリングはオマケのファクターであって、能力比較とトラックバイアスが最優先です。それは強く言っておきたいと思います。すみません、脱線しました。

予想屋マスター

ちょっと話を戻しましょうか？僕が思っているコーナリング能力ってどちらかと器用な競馬ができて内で脚を溜められる馬はコーナリング能力が高いと思っていて、外から差す馬のコーナリング能力は、ただ惰性で外を回されているのか、力が上で馬群に包まれたくないのかによって違うよねって話があります。それはコーナワークの位置取りや走りを総合的に判断すれば分かるよねって思っています。

玉嶋亮

その通りだと思います。コーナワークって、如何に良いポジションを奪い合う食い合いみたいなところもあるから、そういう意味で言うと、小回りコースで常に大外を走るような馬は、椅子取りゲームで負けているから大外にいる、みたいな面もありますからね。

予想屋マスター

あと、馬込みが嫌な馬もいるから、総合判断が重要だと思っています。あと、トラックバイアスにもよりますね。外が不利じゃなかったら、外に出したっていいわけだし。内前有利のトラックバイアスの時に、コーナ

リング能力がめちゃくちゃ出やすいです。

玉嶋亮

仰る通りです。

予想屋マスター

次に加速力。これってどういう意味ですか？

玉嶋亮

馬が直線向いた時に仕掛けたらスパッと加速することです。どこの競馬場でも共通していますが、加速力が悪くて、勝負どころで置いていかれる馬って、大きなハンデを負うじゃないですか？立ち遅れてから差し切るのは容易じゃないし、逆に、加速力のある馬は一気にリードを広げられますから。重賞級の馬だと。。ヴァンドギャルドなんか、典型的かも。この馬って、本当に加速力が悪くて、よく重賞勝ったなと思います。ドバイターフは直線が長いから好走できましたけど、あのレースもエンジンが掛かるまでかなり完歩数があったと思います。その後にアメリカのBCマイルに行った時は「えっ？」と思いました。私が決めることじゃないんですけど、よりによって、ダートコースの内側に芝コースがあって、直線が短いコースを敢えて選ぶの？とは思いました。

予想屋マスター

これは難しい。例えば、反応が悪い馬っているじゃないですか。僕のイメージでは、やっぱり内前有利のトラックバイアスで、反応の悪い馬は買いづらいのですよ。

玉嶋亮

そうですね。

予想屋マスター

僕の中では適性だと思っていて、外差しのトラックバイアスでは買いやすい。アナザーリリックもそうだと思います。どちらかっていうと、馬群の中で脚を溜めても走らない馬だというイメージはあります。

玉嶋亮

はいはい。

予想屋マスター

外から包まれている時に脚があっても馬が嫌がって走らない馬みたいなイメージだってことです。

玉嶋亮

なるほど。

予想屋マスター

ジェラルディーナが毎回恵まれていたという話をしたけど、事実を述べているだけ。内有利なときにロスなく乗って、外が有利なときに外差しでも好走したから、タイプとしては珍しい馬かとは思うけど。

玉嶋亮

そうですね。

予想屋マスター

それぞれの馬には特徴あるよね。

玉嶋亮

マテンロウレオなんか典型的ですね。競馬が上手です。

予想屋マスター

マテンロウレオね。いつも好位のインで流れに乗れるもんね。

玉嶋亮

本当にいい馬ですよ。2023年大阪杯も4着ですか。

予想屋マスター

そういう意味でいうと、ノースブリッジなんかも競馬が上手だよ。

玉嶋亮

ああ、そうですね。

予想屋マスター

力は足りないのだけど、ロスなく乗るから、イン有利なトラックバイアスでちょっとスローになるとひょっこり顔を出すみたい。これを力が足りないという言い方はおかしくてこれが馬の能力。向き不向きだけど、やっぱり内前有利なトラックバイアスでは、ノースブリッジやマテンロウレオみたいな馬は器用な競馬をする馬は有利だよ。マリアエレナもそうだよ。ただジョッキーが下げすぎちゃったのはよく分からないけど。

玉嶋亮

そうですね。

予想屋マスター

今の時代って、そんなに外が有利にならないから。競馬が上手な馬しかG1に出られない。昔みたいに大外ぶん回してくるのってオルフェーブルぐらい能力ないと無理だよ。

玉嶋亮

あと、最近で言うとプログノーシスなんかもそうですね。

予想屋マスター

そういう意味で言うと、プログノーシスくらいのG1級の能力を秘めている馬でも、G3で足踏みしちゃうのが今の競馬だと思う。

玉嶋亮

仰る通りです。

予想屋マスター

あれ、みんな叩くけど、ポツン最後方1頭だからいい脚使ってるわけで、馬群入れたら走らないよ。

玉嶋亮

もしかしたら、走るかもしれないけど、でもそれって騎手が捌けるかっていったら、まあまあリスクが高いですね。藤岡佑介騎手が、中日新聞杯で差し損ねて4着で随分叩かれていましたけど、川田騎手でも後方待機です。

予想屋マスター

昔からああいう馬はいましたよ。ペルーサもそうだし、たまにいるのよ。強く見えて過大評価されるから、期待値が低いのよ。

玉嶋亮

調教師もそうだし、騎手もそうですけど、誰も責任が取れないから前と同じことをやり続けるしかないですよ。後方まで下げて。「前例踏襲が競馬の基本」は、『競馬の教科書』で書いた通りです。調教師や騎手が独自の判断で前目のポジションで馬群の中に入れて惨敗させたら、責任問題に発展することは、誰の目にも明らかです。

予想屋マスター

プログノシスに関しては、いくらやっても国内のG1では厳しいかもね。重賞なら勝つだろうけど、国内のG1だったらあの競馬をし続けて展開がハマるのを期待するしかないよね。他も強いしさ。中途半端にやっても絶対勝てないから。

玉嶋亮

あれをやり続けるしかないですね。

予想屋マスター

パンサラッサの逆だから。早目に競られれば潰れるし、放っておいてくれば逃げ残るのと同じで、みんなが前へ行って潰れてくればプログノシスが勝てる。同じ競馬をし続けていればいつか勝つかもしれない。ただ、今の競馬は、外差しのトラックバイアスになりづらいから、ちょっと厳しいよねっていうのはあるけど。

以上。

ご清聴ありがとうございました。

『補足資料②』に続く。。。

●競馬の教科書 玉嶋亮（たましまりょう） プロフィール

1985年生まれ。本業を抱え時間の制約があるため、芝オープンクラスのみにフィールドを限定している。『能力比較』『馬場読み』を中核のファクターとして、パドックや追い切り等は一切見ないスタイル。2021年凱旋門賞の単勝万馬券、2022年AJCCの三連単288万円等の的中実績がある。『単勝多点』『変則フォーメー

ション』『複勝チャレンジ』等多彩な馬券術に定評があり、設計回収率=130%を公言し、累計回収率=145%を記録（2023年5月末時点）。旧作『競馬の教科書（ピンク本）』は、個人出版ながら異例の大ヒットを記録し、2022年11月にベストセラーの座を譲らないまま絶版した。アマチュア最強の予想屋、日本一の競馬作家になるのが目標。

公式 HP▼

<https://tamashimaryo.wixsite.com/my-site>

●予想屋マスター 平出心（ひらいでしん） プロフィール

1977年10月27日生まれ。競馬予想屋・弁理士。中学から理論的な競馬の分析に目覚める。大学1年目に東京の場外馬券場でプロ予想屋としてデビュー。彼の論理的でわかりやすいレース解説が評判を呼んで、周りはいつも人だかりで反響を呼んだ。当り馬券の1日最高払戻金額は1,580万円。高額馬券引換所の受付係から「あんちゃんまた来たの？」言われた逸話は有名。慶応大学大学院修士課程修了後、難関国家資格の弁理士試験に一発合格。2006年より日本一の優良予想屋を目指して「予想屋マスター」を開設。2019年にYouTube人気番組『令和の虎』に虎として出演。過去の志願者と交流を深めるために「平出社長@競馬予想屋公式TikTok」開設。

公式 HP▼

<https://www.keibariron.com/>

競馬の教科書「補足資料①」

2023年5月25日 発行

玉嶋 亮（競馬の教科書） 平出 心（予想屋マスター） 著

r.tamashima.0926@gmail.com

株式会社サクメディア
